神戸大学大学院人間発達環境学研究科

修了生アンケート結果報告書

2017（平成 29 年）10 月

神戸大学大学院人間発達環境学研究科

目　　次

I.　調査の概要 1

II.　調査結果 3

1.　分析対象者の基本情報…… 3

2.　研究科への評価…… 4

3.　研究科の人材育成…… 14

4.　研究科への期待…… 22

III. 総括 23

資料

資料１　「印象にのこっている」、「優れている」もの 1

資料２　神戸大学大学院人間発達環境学研究科に期待されること 11

資料３　就職先一覧 17

資料４　質問票 18

I. 調査の概要

目的

本調査の目的は，平成 19 年度から平成 28 年度までの人間発達環境学研究科の教育・研究の取り組みの効果について，修了生からの意見聴取により明らかにすることであった。

調査時期

平成 29 年 5 月~8 月

調査対象者と調査の手続き

平成 20 年度から平成 28 年度までに神戸大学大学院人間発達環境学研究科博士課程を修了した者 854 名(前期課程修了者 782 名，後期課程修了者 102 名：進学者 30 名)のうちメールアドレスまたは住所が登録されていた 496 名を対象とし，メールおよび郵送で質問票を配布した。その結果，155 部の質問票を回収した。回収率は 31.3%であった。そのうち回答に不備があったものを除き最終的に 152 部を分析対象とした。有効回答率は 98.1%であった。

調査内容

1. 基本情報

入学年度，修了年度，在籍状況，性別，年齢，就労状況

2. 研究科への評価

(1) **授業や研究，課外活動等で身につけることができた知識，スキル，態度（価値観等）**：授業や研究，課外活動等で知識，スキル，態度（価値観等）をどの程度身につけることができたか。「全くできなかった」から「かなりできた」の 5 件法で回答させた。

(2) **授業や研究，課外活動等への満足**：授業や研究，課外活動等はどの程度満足のいくものであったか。「全く不満足である」から「かなり満足している」の 5 件法で回答させた。

(3) **優れていると思われること**:優れていると思われることについて,次のうちから選択させた。

「明確な使命・学風をもっている」
「人間の発達及び人間の発達を支える環境に関わる学識を身につけることができる」
「人間の発達と環境を学際的・総合的に捉え，分析するための学識を身につけることができる」
「『心身の発達や健康』,『感性の発現としての表現活動』,『行動や身体活動』,『教育や学習』,『自然環境』,『数理情報環境』,『生活環境』,『社会環境』などの領域における人間発達における諸課題を捉え，実践的に解決できる専門的学識と実践的能力を育成している」
「主体的実践的な問題解決能力を身につける教育が充実している」
「フィールドワーク・実践・実験を重視している」
「優れた教員が多い」
「分野を超えた研究交流を行う機会があり，学際的に学ぶ機会がある」
「学外からの専門家を招き，専門的知見を広げる機会が充実している」
「社会との連携を重視している」
「国際性を重視している」

「少人数・対話型の教育が充実している」
「高いレベルの研究を行っている」
「教育や研究のための施設・設備が整っている」
「社会の多方面で活躍する人材を輩出している」
「人間の発達を中心にした多領域横断型の研究プロジェクトが充実している」
「サイエンスショップ，のびやかスペース『あーち』,『アゴラ』，心理教育相談室，アクティブエイジング連続講座など，研究や教育を基盤とした社会実装的取り組みが行われている」
「人間の発達と環境に関する研究を自立して行う能力を身につけることができる。」
「人間の発達と環境に関する共同研究や学際研究を企画・組織する能力を身につけることができる。」
「人間の発達と環境に関する多様な研究分野を俯瞰し，新たな研究課題や領域の開拓へと活かす創造的能力を身につけることができる。」
「人間の発達と環境に関する各研究分野に関連した高度な研究能力を身につけることができる。」

(4) **授業や活動の中で，「印象にのこっている」「優れている」と思うもの，その理由**：授業や活動の中で，「印象にのこっている」「優れている」と思うものと，その理由を自由記述により回答させた。
(5) **神戸大学大学院人間発達環境学研究科に期待されること**：神戸大学大学院人間発達環境学研究科に期待されることを自由記述により回答させた。

3. 研究科の人材育成
(1) **研究科における活動を通じて得られた知識，スキル，態度（価値観等）が，現在（かつて）の仕事等に役立っている程度**：研究科における活動を通じて得られた知識，スキル，態度（価値観等）は，現在（かつて）の仕事等に役立っているか。「全く役立っていない」から「かなり役立っている」の 5 件法で回答させた。なお，わからない場合は「わからない」を回答させた。
(2) **現在の仕事**：現在の仕事について，「教育」「研究」「技術」「芸術」「スポーツ」「健康」「福祉」「医療」「環境」「心理」「自然」「情報」「電気」「金融」「ICT（ｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝ・ｱﾝﾄﾞ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ)」「国際」「地域」「行政」「開発」「調査」「企画」「政策」「生活」「子ども」「高齢者」「ジェンダー」「コミュニティ」「社会支援」「社会教育」「学校教育」「その他」からキーワードを選択させた。また職種について，「研究職（大学・短大・高専・研究所等)」「研究・技術職（企業等)」「専門職（医師，弁護士，会計士，税理士，コンサルタント等)」「専門職（カウンセラー，家裁調査官等)」「教育職（教員)」「行政職（公務員)」「企業経営」「NGO/NPO 運営」「経理・財務」「生産管理」「営業・販売」「人事」「広報・宣伝」「その他」から選択させた。
(3) **授業や活動の中で，「印象にのこっている」「優れている」と思うものがどのような役に立ったか**：授業や活動の中で，「印象にのこっている」,「優れている」と思うものにより，獲得できたこと，どのような役に立ったかを自由記述により回答させた。

II. 調査結果

1. 分析対象者の基本情報

分析対象者は 152 名で平均年齢は 34.5（±10.4）歳であった。そのうち男性は 65 名で平均年齢 35.6（±10.6）歳，女性は 87 名で平均年齢 33.6（±10.3）歳であった。前期課程のみの修了者は 119 名であり男性 48 名（40.3%），女性 71 名(59.7%)，前期および後期課程修了者は 20 名（但し，うち 1 名は単位取得退学）であり男性 10 名（50.0%），女性 10 名(50.0%)，後期課程のみの修了者は 13 名であり男性 7 名（53.8%），女性 6 名(46.2%)であった。

表 1-1 と表 1-2 に前期課程および後期課程での回答者の，入学年度，専攻別度数分布を示した。

神戸大学発達科学部あるいはそれ以外の卒業であるかについてたずねたところ，神戸大学を卒業した者のうち発達科学部を卒業した者は 71 名, 発達科学部の前身である教育学部を卒業した者が 1 名, 他学部を卒業したものが 2 名であった。他大学を卒業したものは, 44 名であった。34 名は，無回答であった。

表 1-3 に神戸大学発達科学部（教育学部も含む）出身者以外の卒業大学での専門を示した。また，海外の大学（学部）を卒業した者は 3 名であった。出身大学の国名は，ハンガリー，中国，台湾であった。

なお，平成 19 年度から平成 24 年度に心身発達専攻，教育・学習専攻，人間行動専攻，人間表現専攻, 平成 25 年度以降に人間発達専攻に入学した者は 100 名であり, 男性 34 名(34.0%), 女性 66 名(66.0%)であった。人間環境学専攻に入学した者は 49 名であり, 男性 30 名(61.2%), 女性 19 名(38.3%)であった。入学した専攻が無回答であった者が 3 名(男性 1 名，女性 2 名)であった。

表 1-1　博士課程前期課程入学年度，専攻別分布

入学年度（平成）		19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	不明	計
人間発達専攻	心身発達専攻	2	2	3	4	8	4	3	7	11	3	7	91
	教育・学習専攻	3	2	3	2	3	3						
	人間行動専攻	4	1	3	1	2	2						
	人間表現専攻	3			2								
人間環境学専攻		6	1	7	4	9	2		7	5		2	45
不　明			1							1			3
計		18	7	16	13	22	11	3	14	17	3	9	139

表 1-2　博士課程後期課程入学年度，専攻別分布

入学年度（平成）		21	22	23	24	25	26	不明	計
人間発達専攻	心身発達専攻					3	1	9	24
	教育・学習専攻	1			2				
	人間行動専攻	3	1	2					
	人間表現専攻	1			1				
人間環境学専攻			1		1	1		4	7
不　明								2	2
計		5	2	2	4	4	1	15	33

表 1-3　神戸大学発達科学部（元教育学部も含む）出身者以外の卒業大学での専門

学部	学科	回答数
教育学部	学校教員養成，障碍児教育教員養成課程，中学校教員養成課程理科専攻，教養学科，幼児・初等教育学科，音楽，教育学科，幼児教育など	12
文学部・人文学部・英米文学部	心理，心理教育，社会福祉，人文学科，フランス文学，国語国文など	10
理学部・理工学部	応用物理，基礎理学科，化学，電子電機工学，土木	5
経済学部・経済学部・商学部	社会システム学科，商学科など	4
情報・コミュニケーションに関する学部	人間環境学・国際交流など	3
外国語に関する学部	日本語学科，中国	2
芸術系の学部	器楽学科，芸術計画	2
スポーツ健康科学・体育学部	スポーツマネージメントなど	2
農学部・生物資源科学部	生物環境学科など	2
家政学部	食物	1
人間環境学部	文化環境学科	1

2.　研究科への評価

(1)　本研究科での授業や研究，課外活動等で，知識，スキル，態度（価値観等）をどの程度身につけることができたと思うかたずねた結果を図 1-1 と図 1-2 に示した。

①　全体の特徴

全体で 47.4%（72 名）が「かなりできた」，43.4%（66 名）が「どちらかといえばできた」と回答していた。「どちらともいえない」と回答した者は 7.2%(11 名）であり，「どちらかというとできなかった」と回答した者は 1.3%（2 名），「全くできなかった」と回答した者は 0.0%（0 名）であった。無回答であった者は 0.7%（1 名）であった。

「かなりできた」または「どちらかといえばできた」と回答した者はあわせて 90.7%（138 名）であり，「全くできなかった」または「どちらかというとできなかった」と回答した者はあわせて 1.3%（2 名）であった。

②　修了課程別の特徴

前期課程では 40.3%（48 名）が「かなりできた」，49.6%（59 名）が「どちらかといえばできた」と回答していた。「どちらともいえない」と回答した者は 8.4%（10 名）であり，「どちらかというとできなかった」と回答した者は 0.8%（1 名），「全くできなかった」と回答した者は 0.0%（0 名）であった。「かなりできた」または「どちらかといえばできた」

と回答した者はあわせて 89.9%（107 名）であり，「全くできなかった」または「どちらかというとできなかった」と回答した者はあわせて 0.8%（1 名）であった。

後期課程では 72.7%（24 名）が「かなりできた」，21.2%（7 名）が「どちらかといえばできた」と回答していた。「どちらともいえない」と回答した者は 3.0%（1 名）であり，「どちらかというとできなかった」と回答した者は 3.0%（1 名），「全くできなかった」と回答した者は 0.0%（0 名）であった。「かなりできた」または「どちらかといえばできた」と回答した者はあわせて 93.9%（31 名）であり，「全くできなかった」または「どちらかというとできなかった」と回答した者はあわせて 3.0%（1 名）であった。

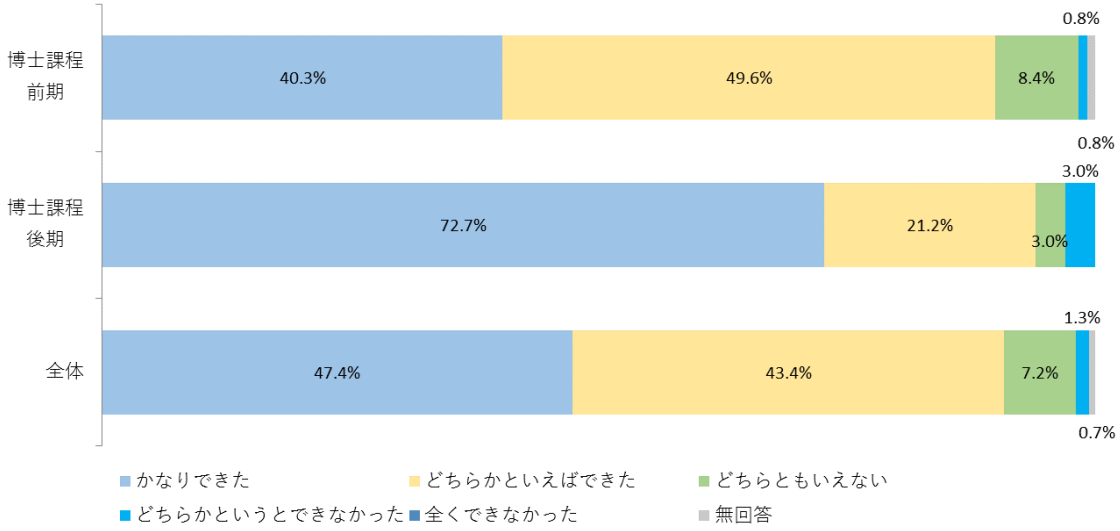


図 1-1 「本研究科での授業や研究，課外活動等で，知識，スキル，態度（価値観等）をどの程度身につけることができたか」に関する修了課程別回答の分布

③ 専攻別の特徴

人間発達専攻では 51.0%（51 名）が「かなりできた」，43.0%（43 名）が「どちらかといえばできた」と回答していた。「どちらともいえない」と回答した者は 5.0%（5 名）であり，「どちらかというとできなかった」と回答した者は 1.0%（1 名），「全くできなかった」と回答した者は 0.0%（0 名）であった。「かなりできた」または「どちらかといえばできた」と回答した者はあわせて 94.0%（94 名）であり，「全くできなかった」または「どちらかというとできなかった」と回答した者はあわせて 1.0%（1 名）であった。

人間環境学専攻では 42.9%（21 名）が「かなりできた」，42.9%（21 名）が「どちらかといえばできた」と回答していた。「どちらともいえない」と回答した者は 10.2%（5 名）であり，「どちらかというとできなかった」と回答した者は 2.0%（1 名），「全くできなかった」と回答した者は 0.0%（0 名）であった。「かなりできた」または「どちらかといえ

ばできた」と回答した者はあわせて 85.7%（42 名）であり，「全くできなかった」または「どちらかというとできなかった」と回答した者はあわせて 2.0%（1 名）であった。

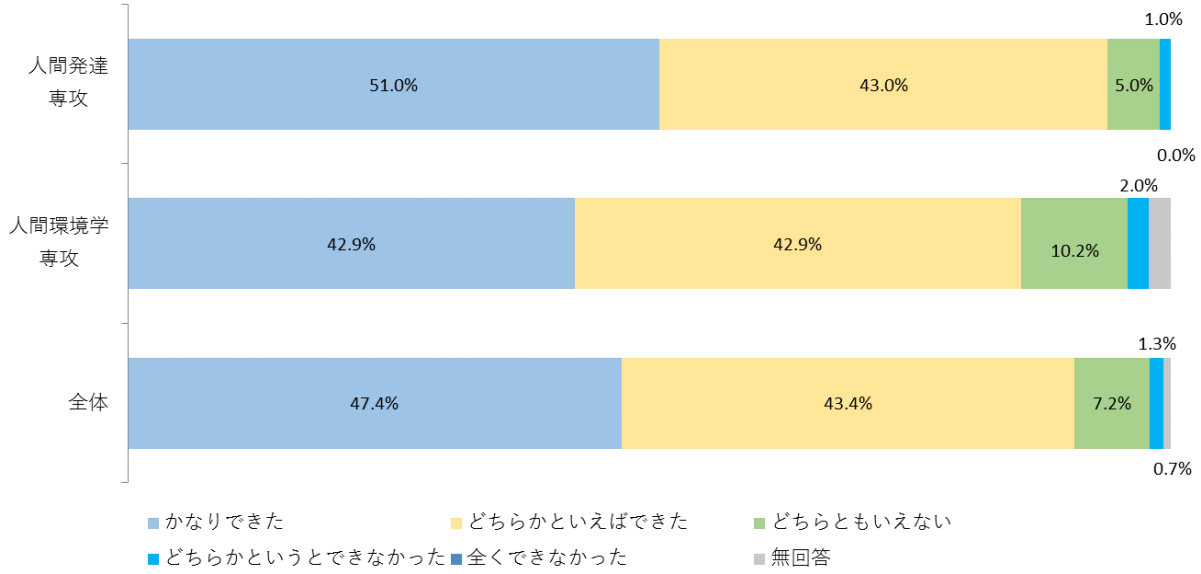


図 1-2　「本研究科での授業や研究，課外活動等で，知識，スキル，態度（価値観等）をどの程度身につけることができたか」に関する専攻別回答の分布

(2)　図 2-1 と図 2-2 に，本研究科での授業や研究，課外活動等は満足のいくものであったかたずねた結果を示した。

①　全体の特徴

全体で 52.5%（80 名）が「かなり満足している」，36.8%（56 名）が「どちらかといえば満足している」と回答していた。「どちらともいえない」と回答した者は 6.6%（10 名）であり，「どちらかというと不満である」と回答した者は 2.0%（3 名），「全く不満である」と回答した者は 0.7%（1 名）であった。1.3%(2 名)が無回答であった。「かなり満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した者はあわせて 89.3%（136 名）であり，「全く不満である」または「どちらかというと不満である」と回答した者はあわせて 2.7%（4 名）であった。

②　修了課程別の特徴

前期課程では 47.9%（57 名）が「かなり満足している」，41.2%（49 名）が「どちらかといえば満足している」と回答していた。「どちらともいえない」と回答した者は 7.6%（9 名）であり，「どちらかというと不満である」と回答した者は 2.5%（3 名），「全く不満である」と回答した者は 0.0%（0 名）であった。0.8%(1 名)が無回答であった。「かなり満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した者はあわせて 89.1%（106

名）であり，「全く不満である」または「どちらかというと不満である」と回答した者はあわせて 2.5%（3 名）であった。

後期課程では 69.7%（23 名）が「かなり満足している」，21.2%（7 名）が「どちらかといえば満足している」と回答していた。 「どちらともいえない」と回答した者は 3.0%（1 名）であり，「どちらかというと不満である」と回答した者は 0.0%（0 名），「全く不満である」と回答した者は 3.0%（1 名）であった。3.0%(1 名)が無回答であった。「かなり満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した者はあわせて 90.9%（30 名）であり，「全く不満である」または「どちらかというと不満である」と回答した者はあわせて 3.0%（1 名）であった。

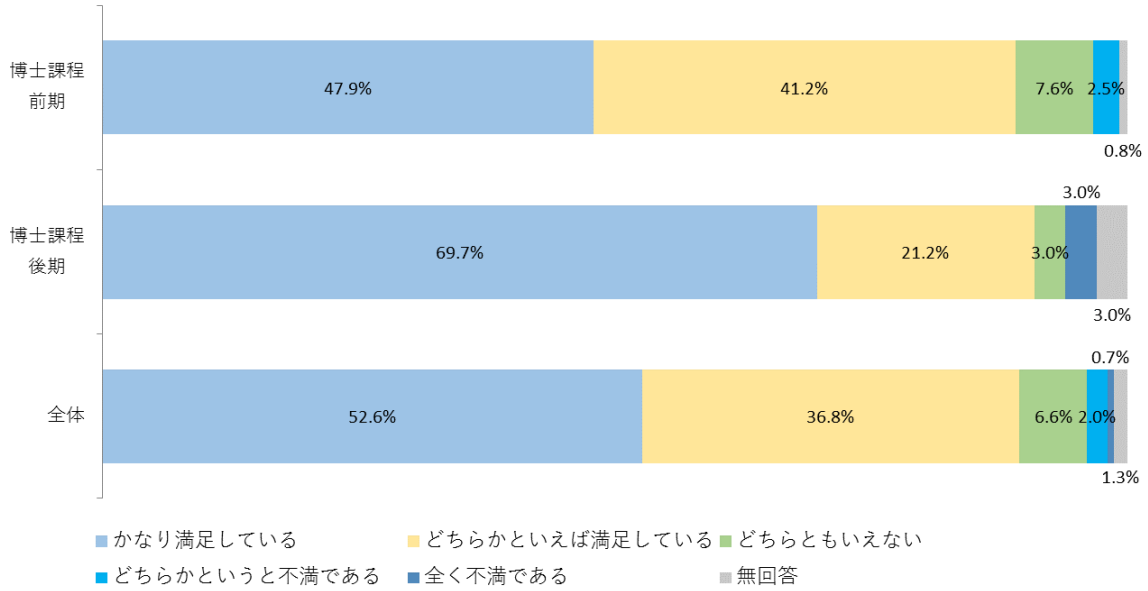


図 2-1 「本研究科での授業や研究，課外活動等は満足のいくものであったか」に関する修了課程別回答の分布

③ 専攻程別の特徴

人間発達専攻では 59.0%（59 名）が「かなり満足している」，33.0%（33 名）が「どちらかといえば満足している」と回答していた。「どちらともいえない」と回答した者は 5.0%（5 名）であり，「どちらかというと不満である」と回答した者は 2.0%（2 名），「全く不満である」と回答した者は 0.0%（0 名）であった。1.0%(1 名)が無回答であった。「かなり満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した者はあわせて 92.0%（92 名）であり，「全く不満である」または「どちらかというと不満である」と回答した者はあわせて 2.0%（2 名）であった。

人間環境学専攻では 42.9%（21 名）が「かなり満足している」，44.9%（22 名）が「ど

ちらかといえば満足している」と回答していた。 「どちらともいえない」と回答した者は 6.1%（3 名）であり，「どちらかというと不満である」と回答した者は 2.0%（1 名），「全く不満である」と回答した者は 2.0%（1 名）であった。2.0%(1 名)が無回答であった。「かなり満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した者はあわせて 87.8%（43 名）であり，「全く不満である」または「どちらかというと不満である」と回答した者はあわせて 0.4%（2 名）であった。

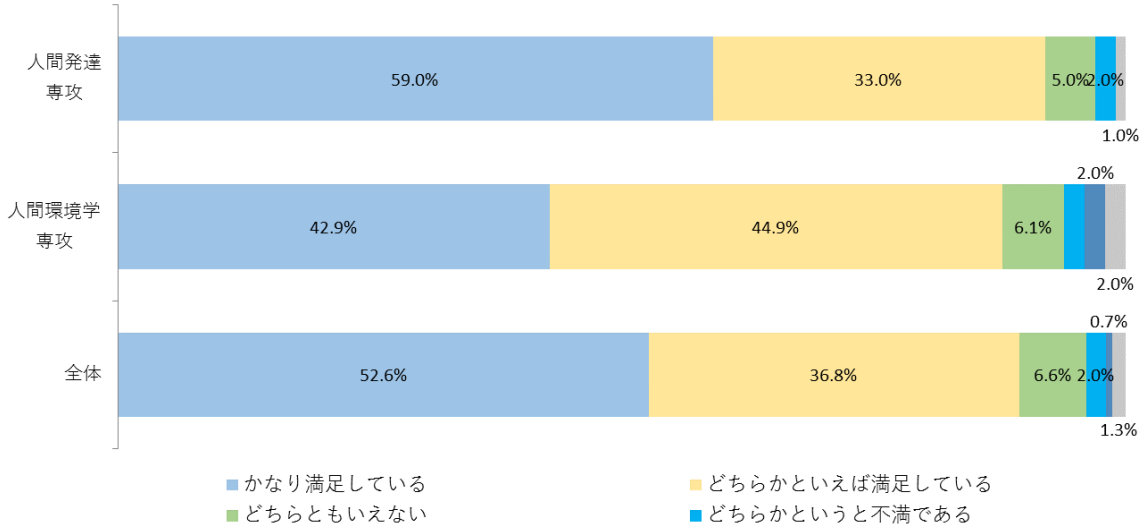
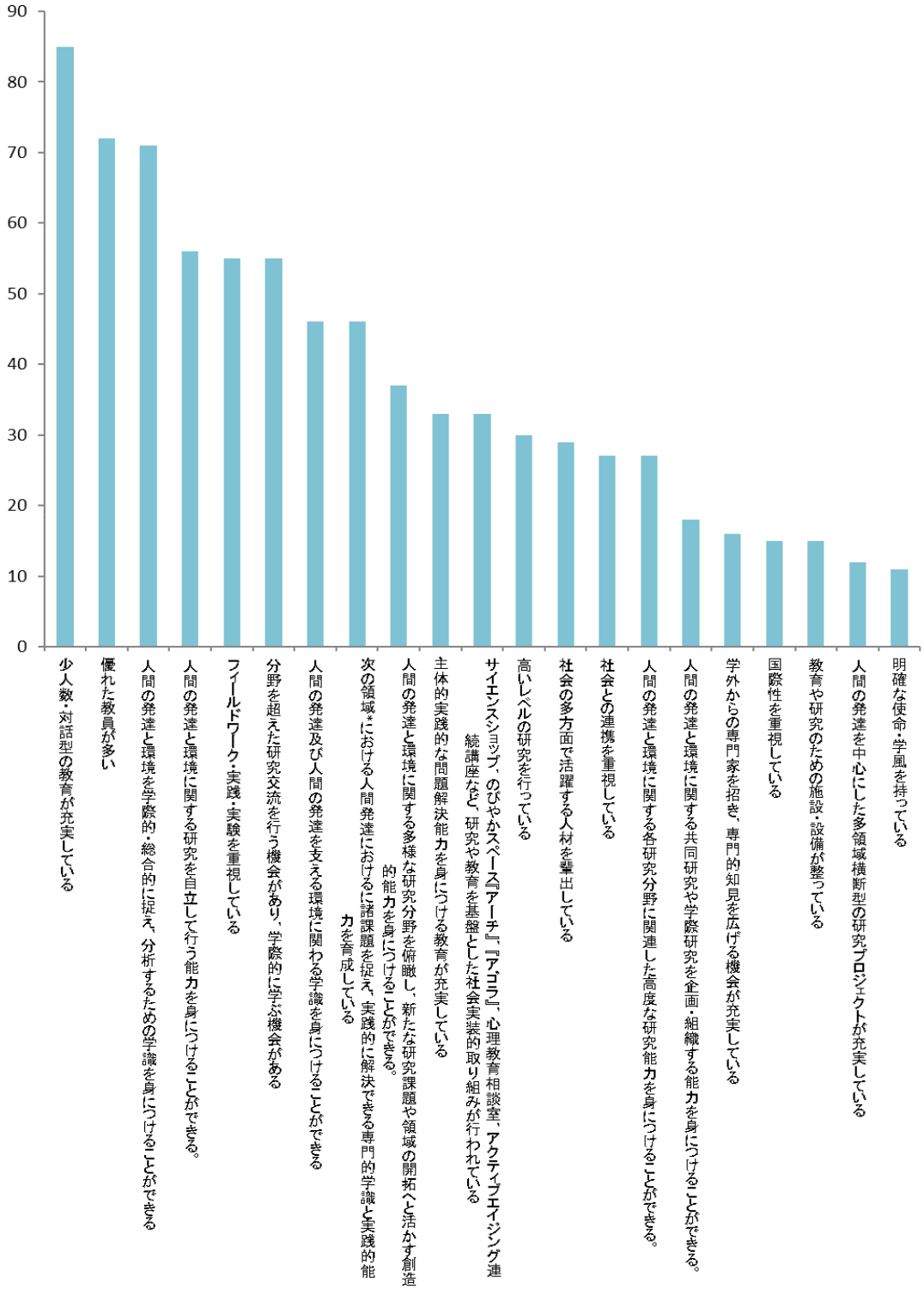


図 2-2 「本研究科での授業や研究，課外活動等は満足のいくものであったか」に関する専攻別回答の分布

(3) 本研究科の優れている点について，図 3-1 に全体，図 3-2 と 3-3 に修了課程別，図 3-4 と 3-5 に専攻別の結果を示した。

① 全体の特徴

全体 55.9%%（85 名）が「少人数・対話型の教育が充実している」，47.4%（72 名）が「優れた教員が多い」，46.7%（71 名）が「人間の発達と環境を学際的・総合的に捉え，分析するための学識を身につけることができる」，36.8%%（56 名）が「人間の発達と環境に関する研究を自立して行う能力を身につける」，36.2%（55 名）が「フィールドワーク・実践・実験を重視している」「分野を超えた研究交流を行う機会があり，学際的に学ぶ機会がある」と回答していた。

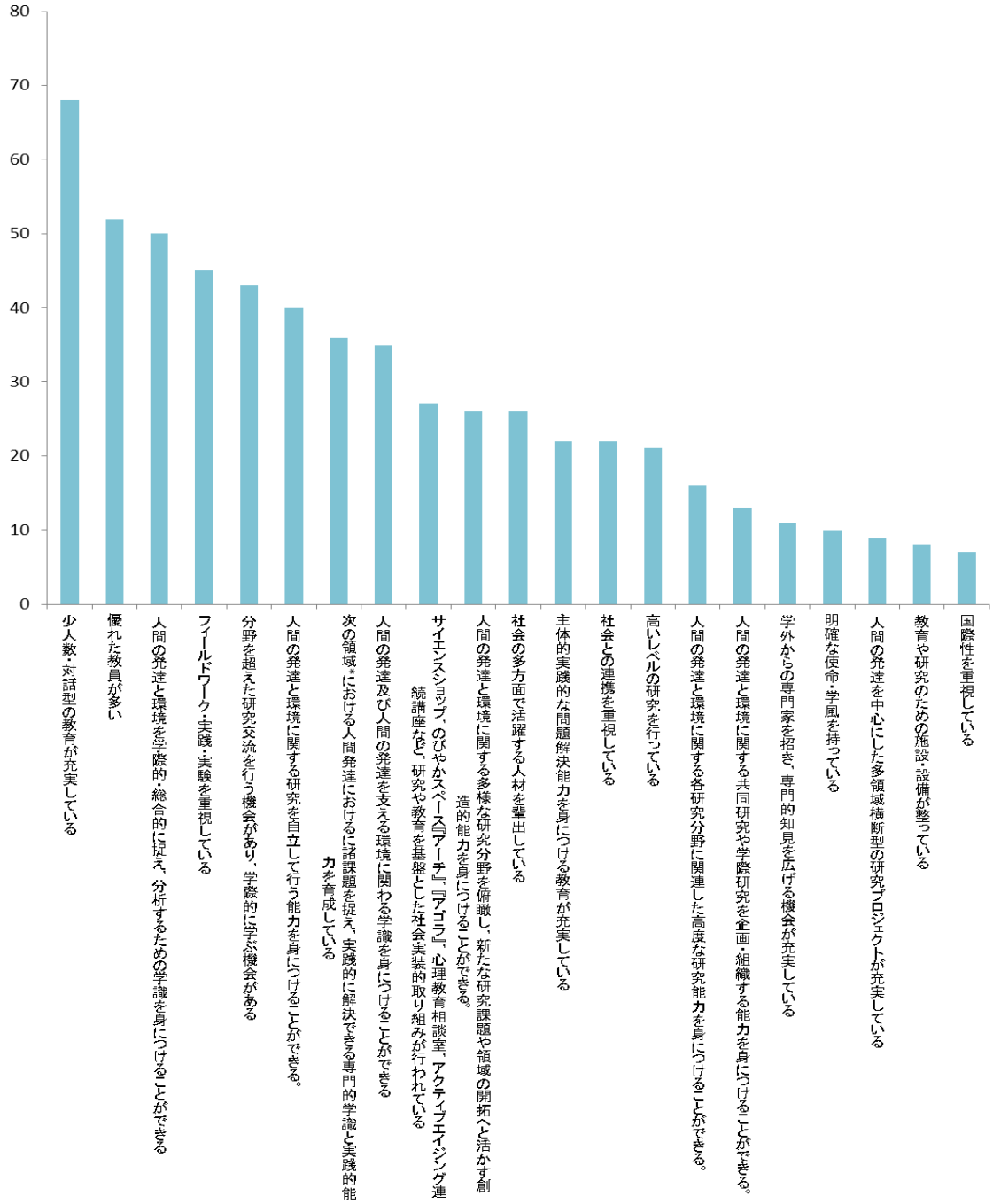


*「心身の発達や健康」,「感性の発現としての表現活動」,「行動や身体活動」,「教育や学習」,「自然環境」,「数理情報環境」,「生活環境」,「社会環境」など

図 3-1　本研究科の優れている点（全体）

② 修了課程別の特徴

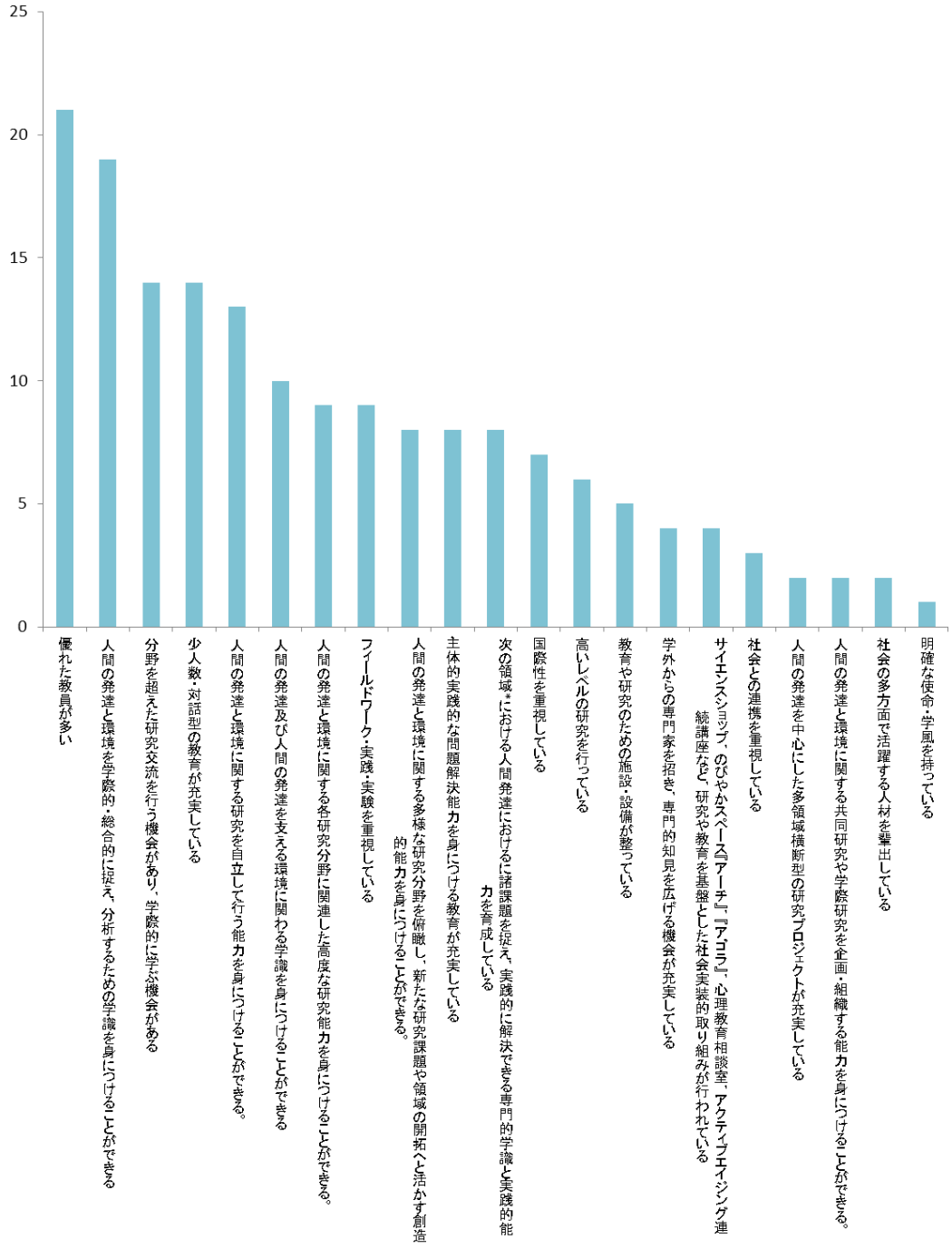
前期課程では 57.1%（68 名）が「少人数・対話型の教育が充実している」，43.7%（52 名）が「優れた教員が多い」，42.0%（50 名）が「人間の発達と環境を学際的・総合的に捉え，分析するための学識を身につけることができる」，37.8%（45 名）が「フィールドワーク・実践・実験を重視している」，36.1%（43 名）が「分野を超えた研究交流を行う機会があり，学際的に学ぶ機会がある」と回答していた。



*「心身の発達や健康」，「感性の発現としての表現活動」，「行動や身体活動」，「教育や学習」，「自然環境」，「数理情報環境」，「生活環境」，「社会環境」など

図 3-2　本研究科の優れている点（前期課程）

後期課程では 87.5%（21 名）が「優れた教員が多い」，79.2%（19 名）が「人間の発達と環境を学際的・総合的に捉え，分析するための学識を身につけることができる」，53.8%（14 名）が「分野を超えた研究交流を行う機会があり，学際的に学ぶ機会がある」「少人数・対話型の教育が充実している」，54.2%（13 名）が「人間の発達と環境に関する研究を自立して行う能力を身につけることができる」と回答していた。

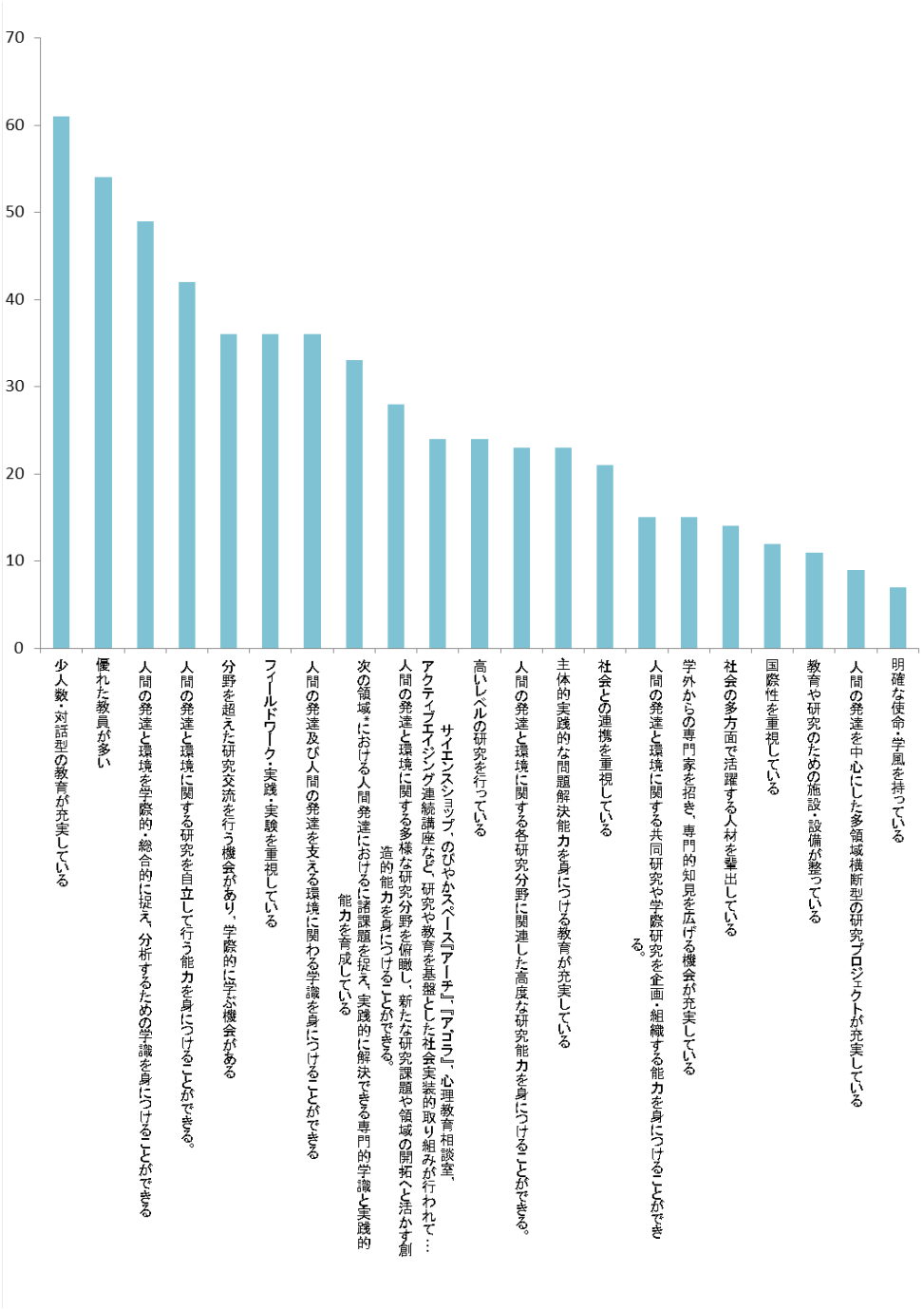


*「心身の発達や健康」，「感性の発現としての表現活動」，「行動や身体活動」，「教育や学習」，「自然環境」，「数理情報環境」，「生活環境」，「社会環境」など

図 3-3　本研究科の優れている点（後期課程）

③　専攻別の特徴

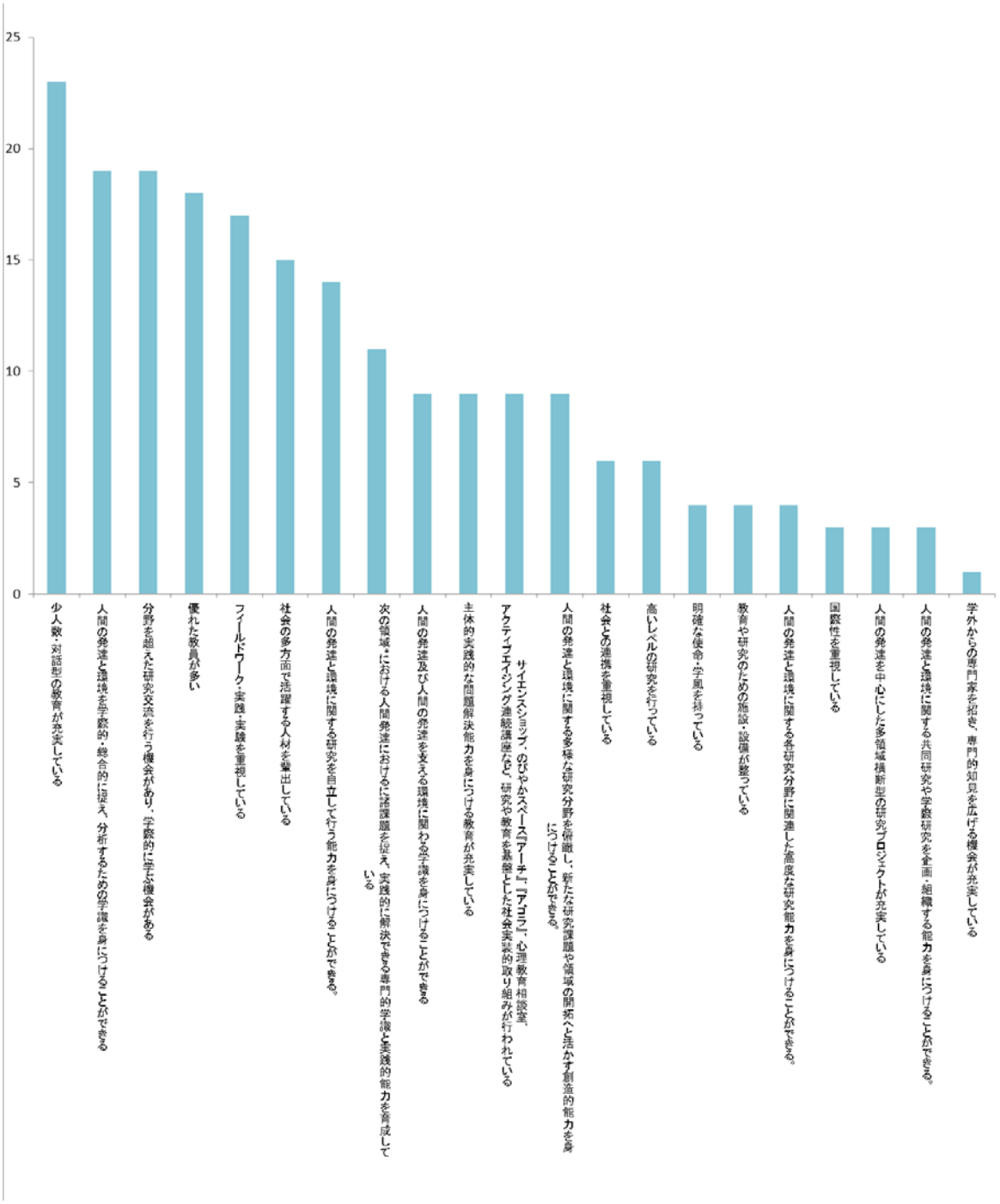
人間発達専攻ではでは 61.0%（61 名）が「少人数・対話型の教育が充実している」，54.0%（54 名）が「優れた教員が多い」，49.0%（49 名）が「人間の発達と環境を学際的・総合的に捉え，分析するための学識を身につけることができる」，42.0%（42 名）が「人間の発達と環境に関する研究を自立して行う能力を身につけることができる」，36.0%（36 名）が「分野を超えた研究交流を行う機会があり，学際的に学ぶ機会がある」「フィールドワーク・実践・実験を重視している」「人間の発達及び人間の発達を支える環境に関わる学識を身につけることができる」と回答していた。



*「心身の発達や健康」，「感性の発現としての表現活動」，「行動や身体活動」，「教育や学習」，「自然環境」，「数理情報環境」，「生活環境」，「社会環境」など

図 3-4　本研究科の優れている点（人間発達専攻）

人間環境学専攻では 46.9%（23 名）が「少人数・対話型の教育が充実している」，38.8%（19 名）が「人間の発達と環境を学際的・総合的に捉え，分析するための学識を身につけることができる」「分野を超えた研究交流を行う機会があり，学際的に学ぶ機会がある」，36.7%（18 名）が「優れた教員が多い」と回答していた。



*「心身の発達や健康」，「感性の発現としての表現活動」，「行動や身体活動」，「教育や学習」，「自然環境」，「数理情報環境」，「生活環境」，「社会環境」など

図 3-5　本研究科の優れている点（人間環境学専攻）

3.　研究科の人材育成

(1) 図 4-1 と 4-2 に，研究科における活動を通じて得られた知識，スキル，態度（価値観等）は，現在（かつて）の仕事等に役立っていると思うかたずねた結果を示した。

① 全体の特徴

前後期課程をあわせた全体で 51.3%（78 名）が「かなり役立っている」，34.2%（52 名）が「どちらかといえば役立っている」と回答していた。「どちらともいえない」と回答した者は 10.5%（16 名）であり，「どちらかというと役立っていない」と回答した者は 2.0%（3 名），「全く役立っていない」と回答した者は 0.0%（0 名）であった。2.0%(3 名)が無回答であった。

「かなり役立っている」または「どちらかといえば役立っている」と回答した者はあわせて 85.5%（130 名）であり，「全く役立っていない」または「どちらかというと役立っていない」と回答した者はあわせて 2.0%（3 名）であった。

② 修了課程別の特徴

前期課程では 43.7%（52 名）が「かなり役立っている」，40.3%（48 名）が「どちらかといえば役立っている」と回答していた。「どちらともいえない」と回答した者は 11.8%（14 名）であり，「どちらかというと役立っていない」と回答した者は 2.5%（3 名），「全く役立っていない」と回答した者は 0.0%（0 名）であった。1.7%(2 名)の者が無回答であった。

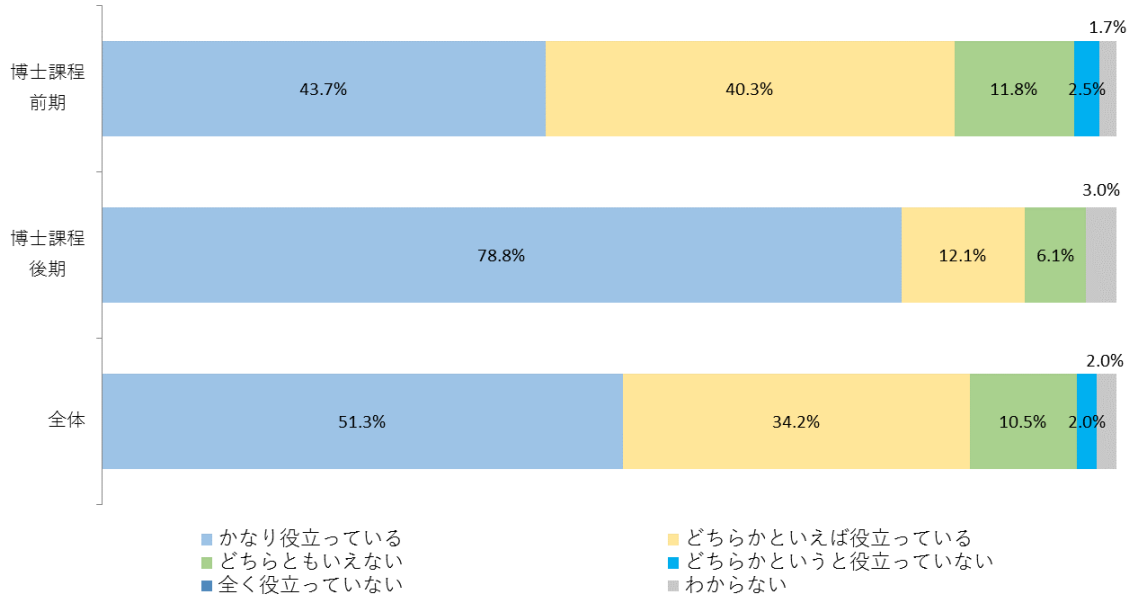


図 4-1　「研究科における活動を通じて得られた知識，スキル，態度（価値観等）は，現在（かつて）の仕事等に役立っていると思うか」に対する修了課程別回答の分布

「かなり役立っている」または「どちらかといえば役立っている」と回答した者はあわせて 84.0%（100 名）であり，「全く役立っていない」または「どちらかというと役立っていない」と回答した者はあわせて 2.5%（3 名）であった。

後期課程では 78.8%（26 名）が「かなり役立っている」，12.1%（4 名）が「どちらかといえば役立っている」と回答していた。 「どちらともいえない」と回答した者は 6.1%（2 名）であり，「どちらかというと役立っていない」「全く役立っていない」と回答した者はいずれも 0.0%（0 名）であった。3.0%（1 名）が無回答であった。

「かなり役立っている」または「どちらかといえば役立っている」と回答した者はあわせて 90.9%（30 名）であり，「全く役立っていない」または「どちらかというと役立っていない」と回答した者はあわせて 0.0%（0 名）であった。

③ 専攻別の特徴

人間発達専攻では 59．0%（59 名）が「かなり役立っている」，30.0%（30 名）が「どちらかといえば役立っている」と回答していた。「どちらともいえない」と回答した者は 9.0%（9 名）であり，「どちらかというと役立っていない」と回答した者は 1.0%（1 名），「全く役立っていない」と回答した者は 0.0%（0 名）であった。「かなり役立っている」または「どちらかといえば役立っている」と回答した者はあわせて 89.0%（89 名）であり，「全く役立っていない」または「どちらかというと役立っていない」と回答した者はあわせて 1.0%（1 名）であった。

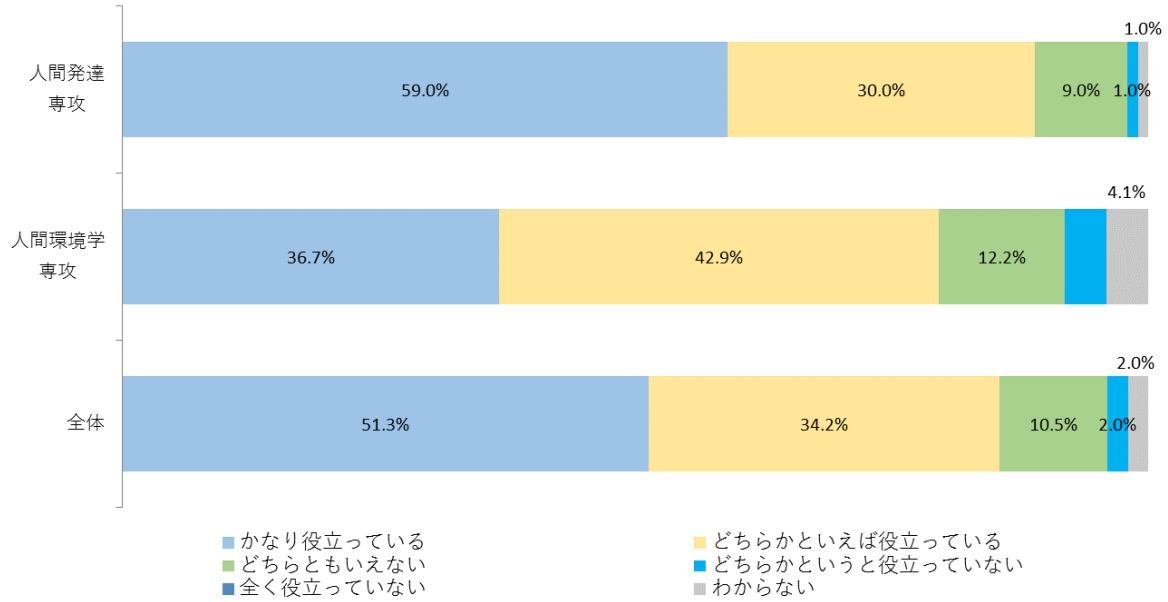


図 4-2 「研究科における活動を通じて得られた知識，スキル，態度（価値観等）は，現在（かつて）の仕事等に役立っていると思うか」に対する専攻別回答の分布

人間環境学専攻では 36.7%（18 名）が「かなり役立っている」，42.9%（21 名）が「どちらかといえば役立っている」と回答していた。 「どちらともいえない」と回答した者は 12.2%（6 名）であり，「どちらかというと役立っていない」と回答した者は 4.1%（2 名），「全く役立っていない」と回答した者は 0.0%（0 名）であった。「かなり役立っている」または「どちらかといえば役立っている」と回答した者はあわせて 79.6%（39 名）であり，「全く役立っていない」または「どちらかというと役立っていない」と回答した者はあわせて 4.1%（2 名）であった。

⑵ 授業や活動の中で，「印象にのこっている」，「優れている」と思うものがどのような役に立ったか：授業や活動の中で，「印象にのこっている」，「優れている」と思うものにより，獲得できたこと，どのような役に立ったかを自由記述により回答させた。

授業や活動の中で，「印象に残っている」「優れている」と思うもの，その理由について前期課程 89 件，後期課程 21 件，合計 111 件の意見が得られた。

得られた文章を，分類したところ下記のような結果が得られた。

主に実践的な視点から学問的知見を獲得できた点について記述されたものが 38 件であった。主に総合的な視点から学問的知見を獲得できた点について記述されたものが 15 件であり，少人数・対話型教育に代表される知見の相互交流について記述されたものが 30 件，問題解決能力や思考力，分析力など能力の向上に役立ったことが記述されたものが 17 件，深い専門性や研究力の獲得について記述されたものが 24 件，教育現場で活用できる教育力の獲得に関する記述が 9 件であった。そして，教員の優れた指導に関する記述が 12 件であった。

資料 1 にその内容を示した。なお，誤字，誤植の修正および個人名の削除を行っている。

現在の仕事に関するキーワード:現在の仕事に関するキーワードの出現頻度を図 4-3 から図 4-5 に示した。また図 4-6 と表 2 に専攻別，現在の仕事に関するキーワードの出現頻度を示した。

① 全体の特徴

全体では 42.8%（65 名）が「教育」，21.1%（32 名）が「研究」，18.4%（28 名）が「子ども」「福祉」，17.1%（26 名）が「学校教育」，14.5%（22 名）が「心理」，10.5%（16 名）が「医療」，9.9%（15 名）が「技術」と回答していた。

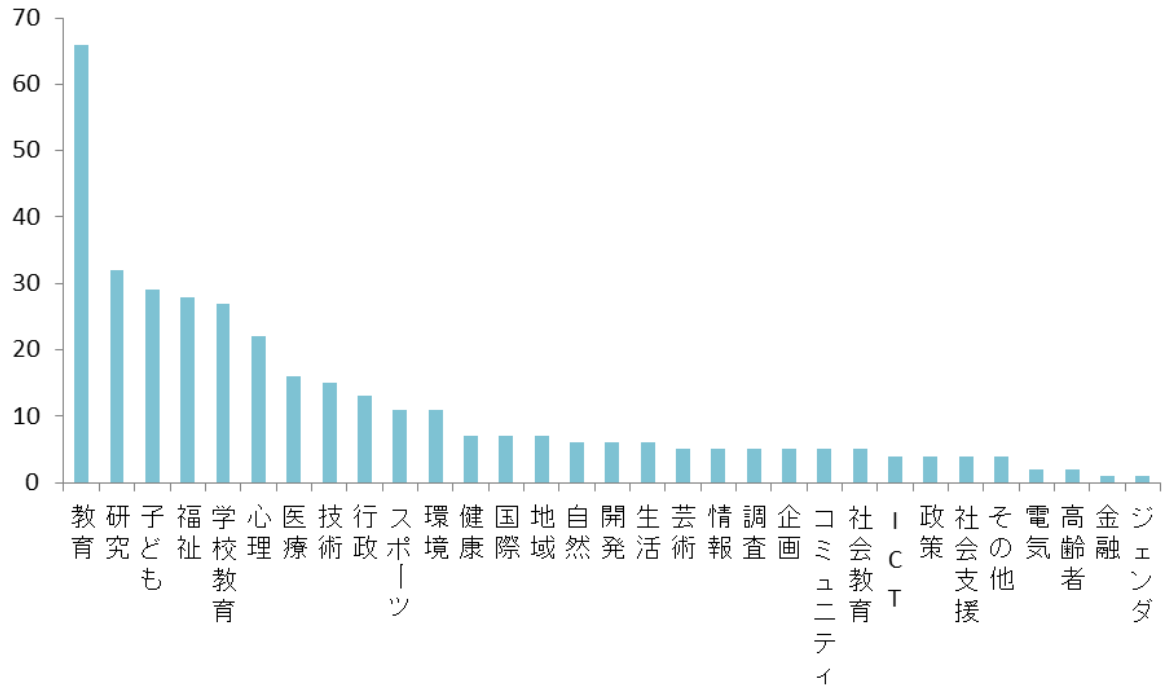


図 4-3　現在の仕事に関するキーワードの頻度（全体）

② 修了課程別の特徴

前期課程では 34.5%（41 名）が「教育」，21.0%（25 名）が「福祉」，20.2%（24 名）が「子ども」「福祉」，16.8%（20 名）が「学校教育」，16.0%（19 名）が「心理」，13.4%（16 名）が「研究」，11.8%（14 名）が「技術」「医療」と回答していた。

後期課程では 72.7%（24 名）が「教育」，48.5%（16 名）が「研究」，18.2%（6 名）が「学校教育」「スポーツ」，12.1%（4 名）が「子ども」と回答していた。

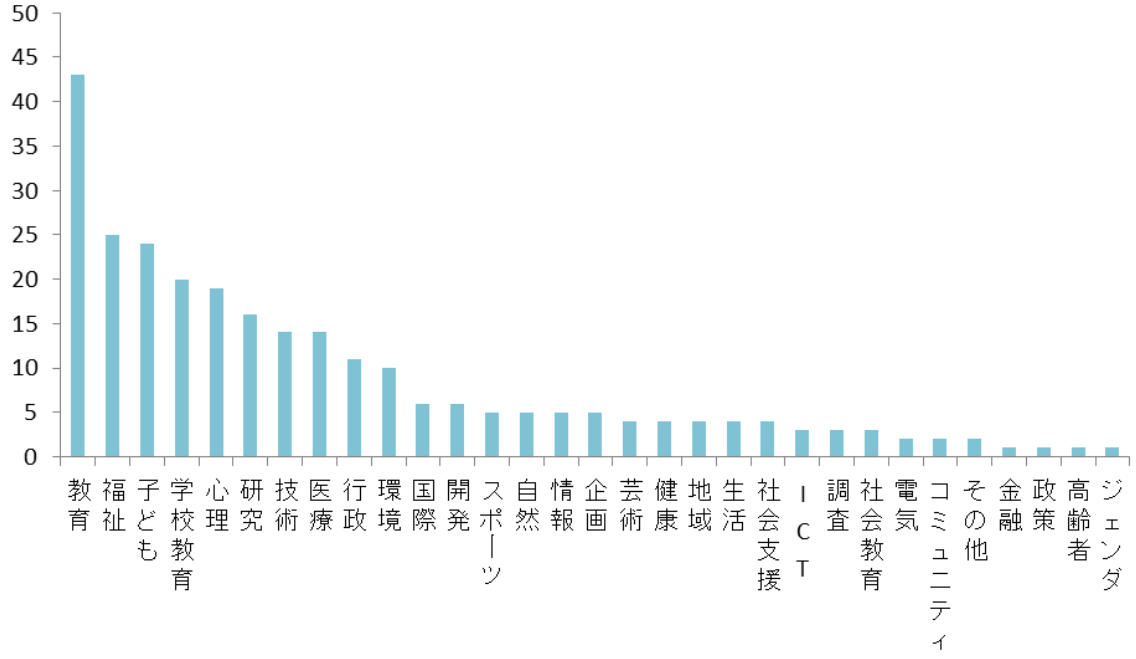


図 4-4　現在の仕事に関するキーワードの頻度（前期課程）

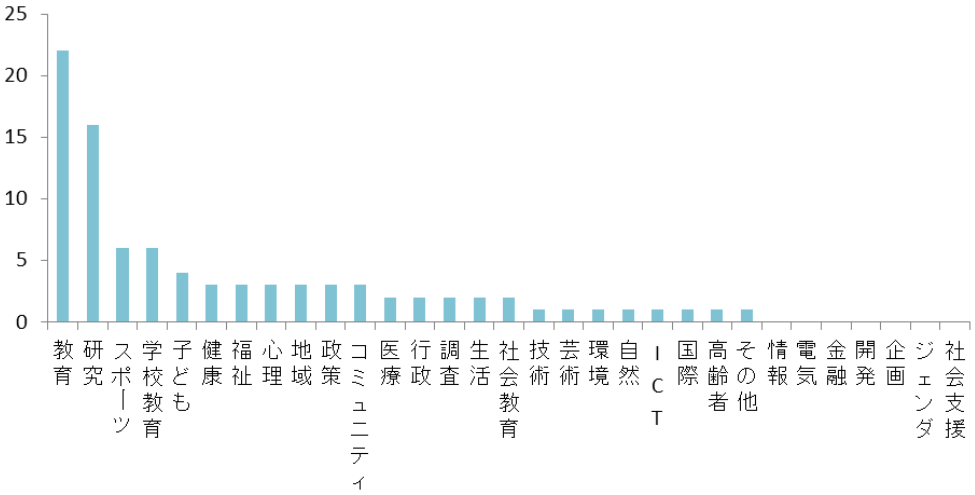


図 4-5　現在の仕事に関するキーワードの頻度（後期課程）

③　専攻別の特徴

人間発達専攻では 48.0%（48 名）が「教育」，25.0%（25 名）が「福祉」，22.0%（22 名）が「研究」「子ども」，21.0%（21 名）が「心理」と回答していた。

人間環境学専攻では 34.7%（17 名）が「教育」，24.5%（12 名）が「技術」，20.4%（10 名）が「研究」，14.3%（7 名）が「学校教育」，12.2%（6 名）が「子ども」と回答していた。

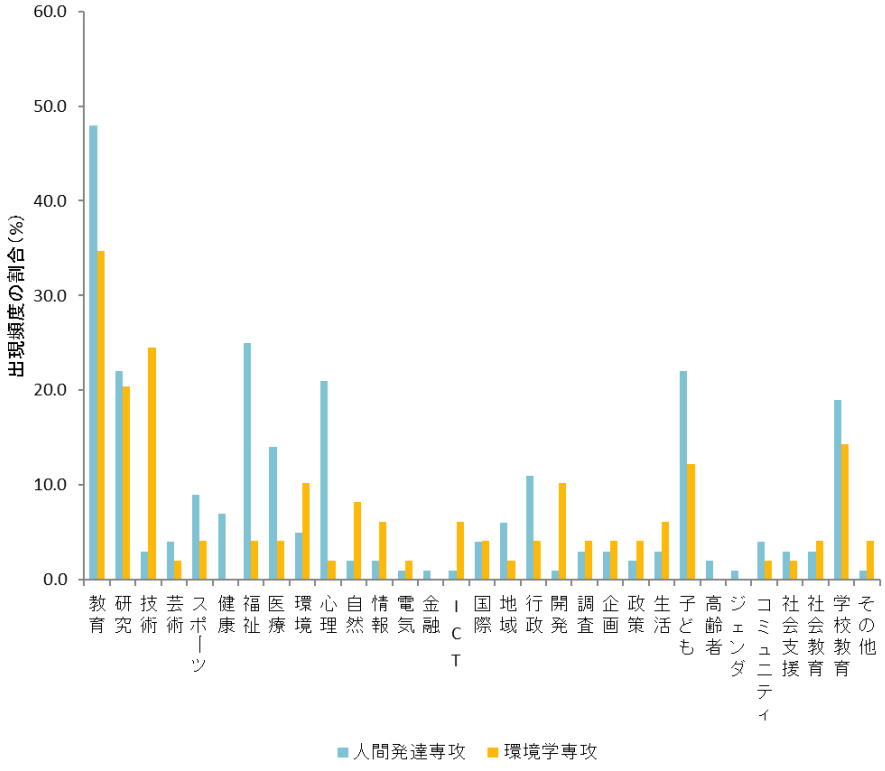


図 4-6　現在の仕事に関するキーワードの専攻別出現頻度割合　（%）

表 2　現在の仕事に関するキーワードの専攻別出現頻度

	人間発達専攻		人間環境学専攻	
	n	%	n	%
1 教育	48	48.0	17	34.7
2 研究	22	22.0	10	20.4
3 技術	3	3.0	12	24.5
4 芸術	4	4.0	1	2.0
5 スポーツ	9	9.0	2	4.1
6 健康	7	7.0	0	0.0
7 福祉	25	25.0	2	4.1
8 医療	14	14.0	2	4.1
9 環境	5	5.0	5	10.2
10 心理	21	21.0	1	2.0
11 自然	2	2.0	4	8.2
12 情報	2	2.0	3	6.1
13 電気	1	1.0	1	2.0
14 金融	1	1.0	0	0.0
15 ICT	1	1.0	3	6.1
16 国際	4	4.0	2	4.1
17 地域	6	6.0	1	2.0
18 行政	11	11.0	2	4.1
19 開発	1	1.0	5	10.2
20 調査	3	3.0	2	4.1
21 企画	3	3.0	2	4.1
22 政策	2	2.0	2	4.1
23 生活	3	3.0	3	6.1
24 子ども	22	22.0	6	12.2
25 高齢者	2	2.0	0	0.0
26 ジェンダ	1	1.0	0	0.0
27 コミュニティ	4	4.0	1	2.0
28 社会支援	3	3.0	1	2.0
29 社会教育	3	3.0	2	4.1
30 学校教育	19	19.0	7	14.3
31 その他	1	1.0	2	4.1

(3) **現在の仕事の職種**：現在の仕事の職種について出現頻度を図 4-7 から図 4-11 に示した。

① 全体の特徴

27.0%（41 名）教育職，20.4%（31 名）が研究職，17.8%（27 名）が専門職(カウンセラー)，9.9%（15 名）が研究・技術職(企業等)であった。

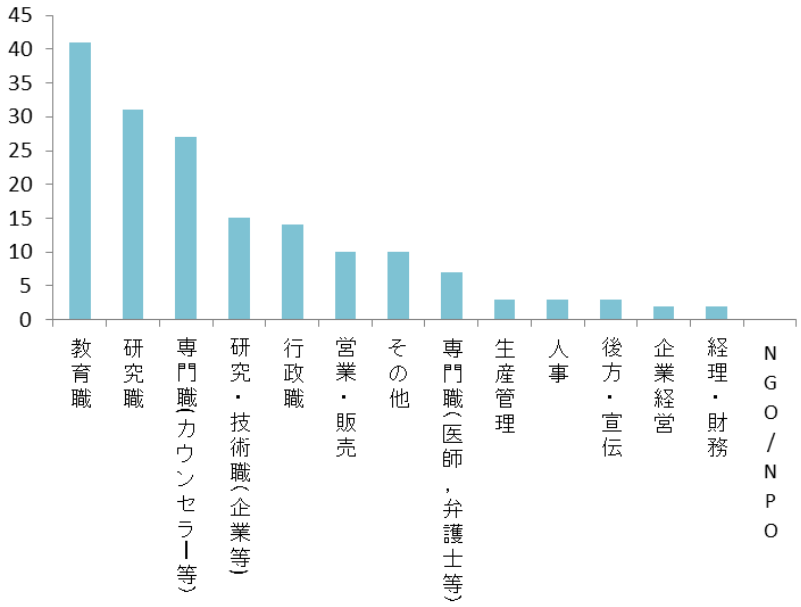


図 4-7　現在の仕事の職種　（全体）

② 前期課程

26.9%（32 名）教育職，21.8%（26 名）が専門職(カウンセラー)，11.8%（14 名）が行政職，11.8%（14 名）が研究・技術職(企業等) であった。

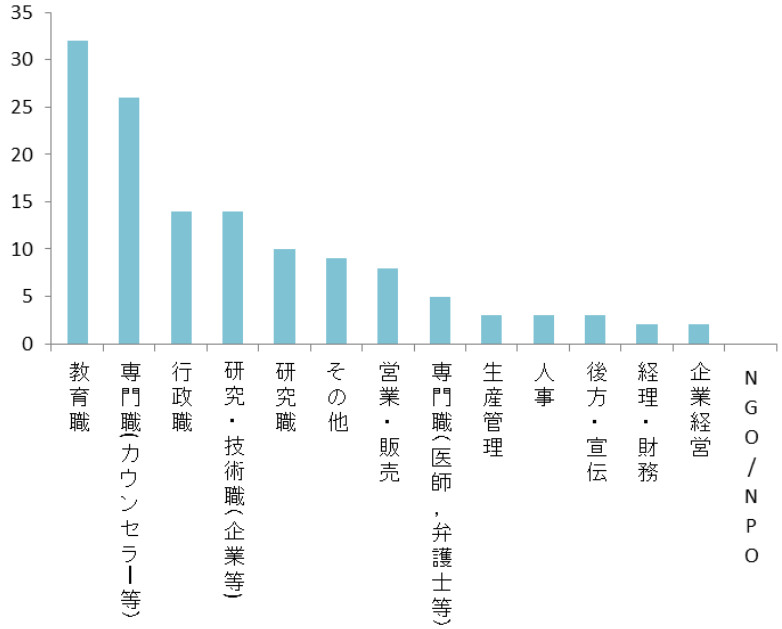


図 4-8　現在の仕事の職種　（前期課程）

③　後期課程

63.6%（21 名）教育職，24.2%（8 名）が研究職であった。

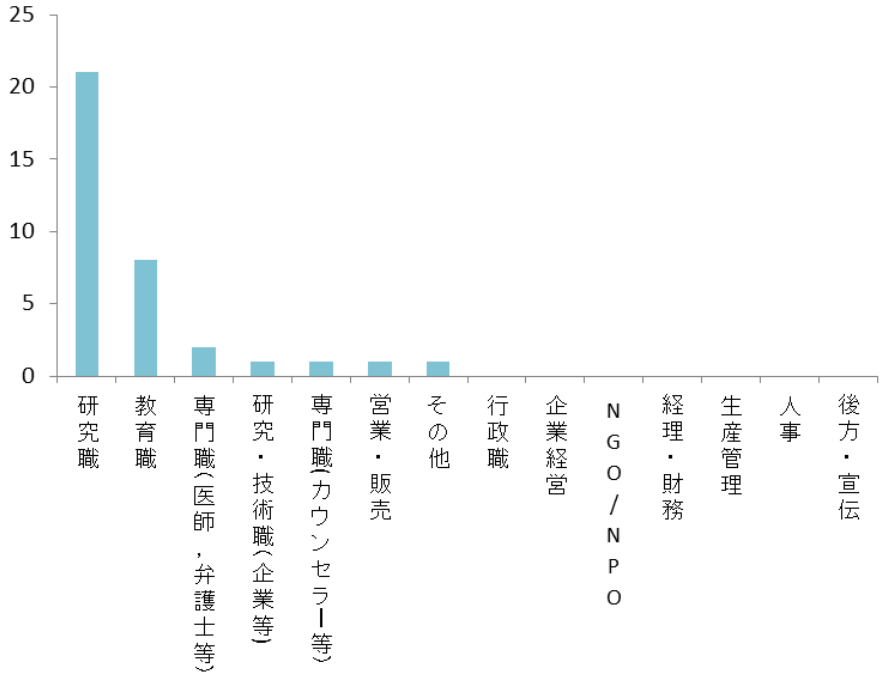


図 4-9　現在の仕事の職種　（後期課程）

④　人間発達専攻

28.0%（28 名）教育職，25.0%（25 名）が専門職(カウンセラー)，24.0%（24 名）が研究職，12.0%（12 名）が行政職 であった。

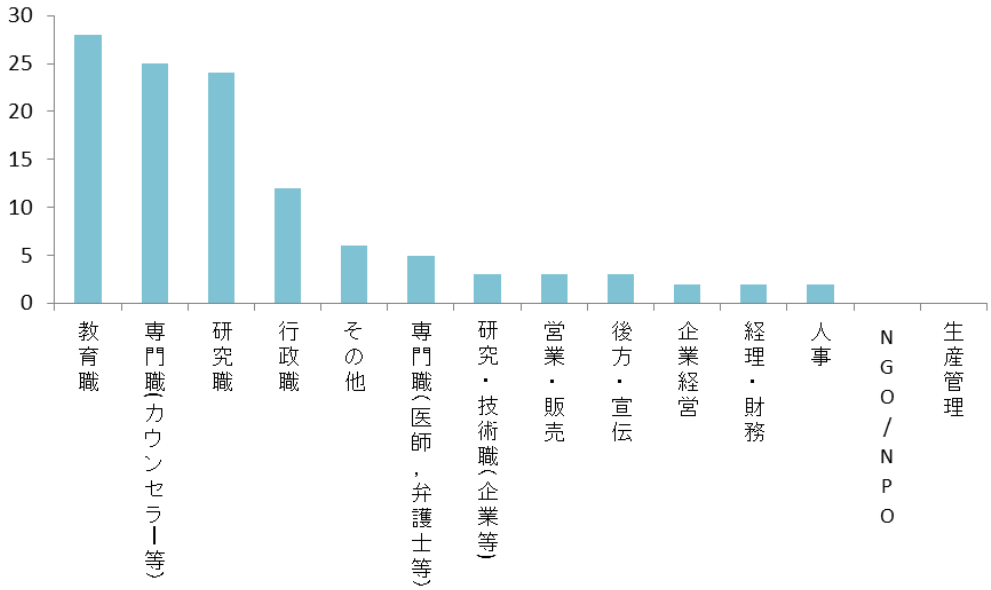


図 4-10 現在の仕事の職種　（人間発達専攻）

⑤　人間環境学専攻

24.5%（12 名）研究・技術職(企業等)，24.5%（12 名）が教育職，14.3%（7 名）が研究職であった。

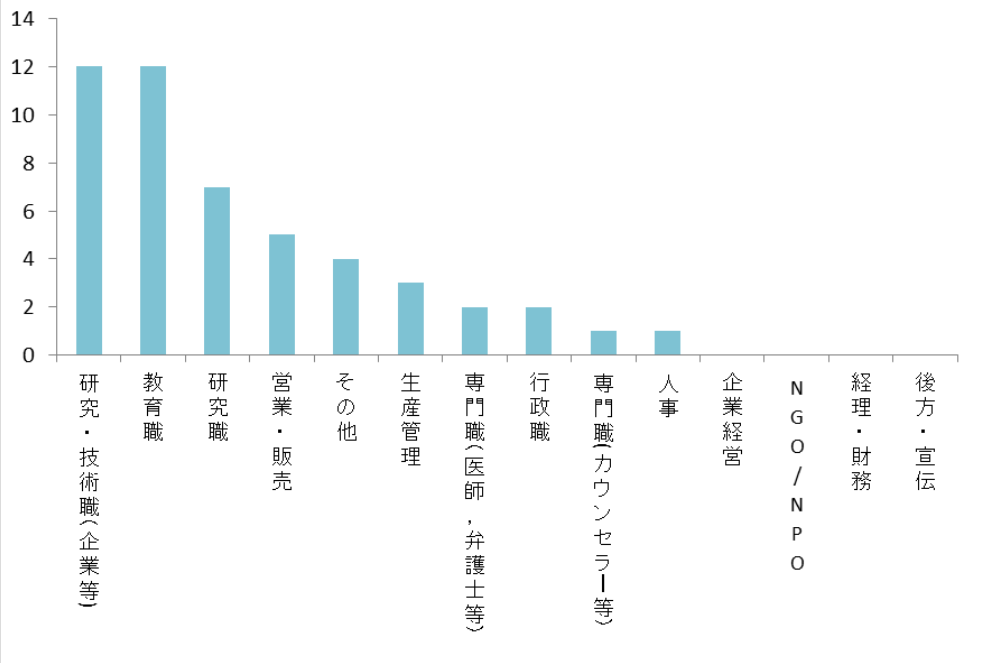


図 4-11　現在の仕事の職種　（人間環境学専攻）

4.　研究科への期待

(1). **神戸大学大学院人間発達環境学研究科に期待されること**：神戸大学大学院人間発達環境学研究科に期待されることに関する意見を回答させた。

神戸大学大学院人間発達環境学研究科に期待されることについて前期課程 44 件，後期課程 19 件，合計 63 件の意見が得られた。

得られた文章を，分類したところ下記のような結果が得られた。

主に実践的な視点から学問的知見を獲得できた点について記述されたものが 10 件であった。主に総合的な視点から学問的知見を獲得できた点について記述されたものが 17 件であり，少人数・対話型教育に代表される知見の相互交流について記述されたものが 12 件，問題解決能力や思考力，分析力など能力の向上に役立ったことが記述されたものが 4 件，深い専門性や研究力の獲得について記述されたものが 6 件，教育現場で活用できる教育力の獲得に関する記述が 1 件であった。そして，教員の優れた指導に関する記述が 7 件であった。

そして，これらの内容について，40 件はこれまで通り継続してほしい，もしくは発展させてほしいとの期待であった。一方，課題として解決を期待するものが 22 件，修了生として支援ができることを期待するものなどが 5 件であった。

資料 2 にその内容を示した。なお，誤字，誤植の修正および個人名の削除を行っている。

III. 総括

今回の調査で得られた知見として，次のようなことが示された。

「本研究科での授業や研究，課外活動等で，知識，スキル，態度（価値観等）をどの程度身につけることができたか」に対する回答として 90.7%が「かなりできた」または「どちらかといえばできた」と肯定的な回答しており，「本研究科での授業や研究，課外活動等は満足のいくものであったか」に対する回答として 89.3%の者が「かなり満足している」，または「どちらかといえば満足している」いたことから，修了生は本研究科の教育，研究における知識，スキル，態度（価値観等）を十分に獲得でき，これへの満足度も高く評価されていることが示された。

修了課程別にその特徴をみてみると，前期課程よりも博士課程の方が知識，スキル，態度（価値観等）がよく獲得されており，満足度も高くなっていたことから，後期課程での教育，研究がよりよく評価されている可能性が示唆された。

次に専攻別の特徴をみてみると，人間発達専攻を修了した学生からの知識，スキル，態度（価値観等）の獲得に対する肯定的評価は 94.0%であり，満足に関する肯定的評価は 92.0%と極めて高かった。

このように教育，研究に対する高い評価の背景にある特徴について，具体的に検討するために本研究科の優れている点について， 21 の項目から選択させた。その結果，全体では「少人数・対話型の教育が充実している」点がもっとも多くの修了生から評価されており，この点については，自由記述の回答からも高く評価されていることが示された。つまり，対話型の具体的な内容としては，分野を超えての活発な交流がなされていることに加え，異学年との交流や社会人との交流といった年齢発達的な多様性も対話型教育の中に組み込まれていることが報告されていた。そして，この学際性，多様性が教育，研究における探求を深め，社会での実用へと発展させている可能性をうかがうことができた。

これを支える結果として，「人間の発達と環境を学際的・総合的に捉え，分析するための学識を身につけることができる」が 36.8%の修了生から，「分野を超えた研究交流を行う機会があり，学際的に学ぶ機会がある」が 36.2%の修了生から選ばれていた。「フィールドワーク・実践・実験を重視している」も 36.2%の修了生が選択していることから，実践的な教育，研究を特徴としていることが確認された。

また，優れた教員が多いことも多くの修了生から評価されていた。

修了別，専攻別においても，選択された内容の順序には同様の傾向が見られたが，人間発達専攻では，修了生による選択率がより高くなっていた。人間環境学専攻においてもさらに，学際性，総合性といった内容を重視することが期待される。

一方，優れている点として選択率が低くなっていた項目は「国際性を重視している」であった。自由記述では，留学や海外での教育実習など極めて質の高い国際交流を行ったことが示されている。今後はより多くの学生の学びとして，国際交流を広げることが期待される。

研究科に期待されることについては，学際性，総合性，実践的であることについて述べたうえで，現在目ざしているこれらの教育，研究の継続やさらなる発展を期待する意見が圧倒的に多かった。また，学際性をさらに深めてほしいといった期待も寄せられていた。課題として，国際性の充実のほかに，設備や，研究費の充実，学生への経済的支援についても挙げられていた。

修了生の就職状況について，キーワードとしては教育の選択率がもっとも高く，上位には，子ども，福祉，学校教育，心理などが上がっており，人間の発達を対象とした就職へと結びついて

いることがうかがえる。そして，研究は二番目に上がっており，研究者の輩出にも十分な役割を担っている。

本調査結果より，ディプロマ・ポリシーとされる人間の発達及びそれを取り巻く環境に関わる基礎的並びに応用的・実践的な教育研究活動に主体的に参加し，これを推進する指導的役割を担える高度な専門的能力，そして創造性および卓越性を発揮しうる研究能力を有する人材の養成について，一定の成果を得ることができていると考える。

資　料

資料１　授業や活動の中で,「印象にのこっている」,「優れている」と思うもの，そう思う理由，それにより獲得できたこと，どのようなことが役に立っているか

項目	修了課程	分類別該当項目						
		実践	総合	交流	能力	専門	教育	指導
主に実践的な視点からの学問的知見の獲得について								
実習で特別支援学校に行けたこと。その前に検査のとり方と子どもを見るポイントなど，しっかりレジュメを作って，映像あり，親切なフォローがさすがだなと思った。	前	○						
植物多様性特論Ⅰ　授業内容，展開の仕方，発問が素晴らしく，学生とコミュニケーションをとりながら多くの知識を提供して頂けると共に自ら考える力がついた。→全てにおいて中学・高校教育でも使えることである，得られた知識も活用できる。	前	○		○				
数学教育について見識や実践力を深めることができたと思います。	前	○				○		
スポーツイベント運営による実践的アクションリサーチ。→大会運営を通じて内側から携わり、企業や他大学など学外の方々とも交流の幅を広げることができた。卒業後もそのつながりは広がり続けている。	前	○		○				
・研究室メンバーでの出張実験（WSOR,spring-8,KEKなど） ・研究に没頭できる環境だった。答えがわからないことに皆でアプローチすることが楽しかった。　・諦めず，考えるクセがついた。	前	○		○	○			
① 各先生が明確な，社会的貢献目標を持って実践されていた。かつ，教育（人材育成）に熱意がある。ご自身の研究と社会活動とのバランスを大事に精力的な中で。②各先生が閉鎖的でなく，研究科全体としての学際性を目ざそうとの目標を持っていた（中にはそうでない方もあったが，包括しようとの空気感が感じられた）。③それゆえ，人間を発達的視点プラス環境との関係性について広範な視野が広がった。のちの業務に多いに役立った。④方法論として実践的アプローチが多く，社会との連携を常に意識できた。⑤多人数でのグループワーク体験が多くあり，先生のトータルなファシリテーション能力を肌で学べた。そのパワーに勇気をもらった。→自由な感覚を得て，職場での困難にも立ち向かえた。	前	○	○					
TA…現場での実質的な経験を積むことが出来た。ゼミ…専門スキルを身につけることが出来た。	前	○					○	
ケースカンファレンス　自分の意見をまとめ，発表する力が身についた。職場での症例紹介に役立っている。	前	○						
ケースカンファレンスや施設での現場実習が印象にのこっています。カンファレンスでは，様々な意見(先生や院生)を聞くことで多面的な視点から理解することの大切さを学びました。施設での実習経験は今でも時々思い出し，振り返る中で，一つ一つのケースに向き合う姿勢について，初心を忘れず，現在の仕事も頑張っていこうと思わせてくれます。	前	○		○				
チューター，ティーチング・アシスタント，学術Weeks（シンポジウムや演奏会の運営・発表，等）　自分の専門外のことを色々と学べた事で，視野が広がった。これらをしなければできなかった。様々な人との関わりが，最も意義のあるものだったと思う。	前	○						

項目	修了課程	分類別該当項目						
		実践	総合	交流	能力	専門	教育	指導
のびやかスペース「あーち」での夏キャンプ，実践的研究，ESDの授業，横断的学習。現在行っているボランティアに役立っています。	前	○						
フィールドワーク	前	○						
フランスのPACA国際学校での教師経験	前	○						
印象に残っているのは，週に一度行われるケースカンファレンスです。そこでは，学生が自分の担当するケースを発表し，ほかの学生や先生方がコメント，アドバイスするということが行われます。その中で，同級生の努力や自分とは異なる対応を学んだり，先生方のアドバイスを聞けたり，カンファレンスをすることが多いので，大学院でのこのような経験を活かし，きめ細かな支援へとつなぐことができています。	前	○						
運動生理学実験や六甲縦走。学部生のTAとして参加することで、学部の時とは違った経験ができた。実験やデータ処理について学ぶことができた。	前	○						
活動：サイエンスショップでは社会と大学をつなぐ取り組みがなされ，サイエンスカフェ，アストロノミア，輪読会など，社会に開かれた大学として，独創的で，学内にのみとどまらない貴重な体験ができた。	前	○						
研究テーマの選択や課外活動への参加が自由で、制約が少なかったように感じる。受動的ではなく能動的に物事に取り組む姿勢が身についた。	前	○						
研究活動が印象に残っています。一対一での丁寧なご指導をはじめ，フィールドワーク先との連携を図ってくださったことなど研究支援体制が充実しているからです。	前	○						
実際に教育現場に出て，子どもの様子を見ることができる授業が印象にのこっています。将来現場に出たいと思っていた私にとって，そのような子ども・教師を間近で見ることができたことが，とてもよい経験になりました。現場に出てからも，そのときのことが役立っています。	前	○						
心理教育相談室での実習。実際にセラピストについて体験的に学ぶことができました。職場でも保護者と面接をする機会が多いですが，大学院での経験が自分にとって１つの自信につながっている面があると思います。	前	○						
心理教育相談室での実習やスパーバイズは心理士を志すにあたって大変貴重な経験となりました。	前	○						
心理相談室での実習。実際のクライアントを前に，現在の仕事に直結した実習を行うことを（カウンセリングやセラピー）ができ，責任感や心理士としての自覚を養うことができたため。	前	○			○	○		
相談室でのケース担当。毎週のケース検討の場。自身のケースだけでない様々なケースの動きをきけて勉強になった。先生によって捉え方やアドバイスが異なるのも面白く，様々な視点から見ていくことの重要性を学んだ。	前	○						
相談室での実習，スーパーバイズ，ケースカンファレンス実際の事例に対し，先生方や先輩方，同朋がどのように考えるかを知ることが出来た。	前	○						

項目	修了課程	分類別該当項目						
		実践	総合	交流	能力	専門	教育	指導
大学院での相談室業務での実習等が実践とつながり，役立っています。	前	○						
民俗音楽に関するフィールドワーク。準備，学習，研究など主体性を持って学び，討論やグループワークの中で多面性をもって内容を深める事ができた。また，それぞれのもつ個性や独自性を発揮し，各々に適した役割をもって協力することができた。それが今後に役立つ大きな学びとなった。	前	○						
臨床心理学コースのケースカンファレンス。1つのケースについて様々な人の意見を，それぞれの専門分野からいただき，多面的に見る力がついた。	前	○						
臨床心理実習が，最初の現場として印象に残っています。また，ゼミでの先輩，後輩との交流により，特定の考えに偏ることなくものごとを捉えられるようになっていると思います。	前	○						
臨床心理実践（相談室運営）により，多様な価値観に触れて，人としてもどうあるかを考えることで，生きる力がついたと思います。	前	○						
ESDの授業。ESD研究，ESD研究演習，等プロポーザル。現在もESD関連の神戸大学のボランティアを継続。ESD推進ネットひょうご神戸の会員。保育関係の世界乳幼児・保育機構等（ESD)において勉強中。研究発表の形式がとても現在の研究発表において役立っている。	前	○			○			
教員からの指導，授業，ボランティア。学生に対して丁寧に指導する大切さを知りました。今の仕事に役立っています。	前	○						
実践的な研究が行えたこと、大学院GPプロジェクトにかかわることができたこと、大学院で学んだことは，現在の活動（健康）づくり教室の実践や学会発表に役立っております。	前	○						
「発達障害臨床学」の授業で実際に発達障害のあるお子さんのケースを担当させていただき，仲間とディスカッションしたこと。	後	○		○				
サイエンスショップを基点とした他分野，他学年の人達との交流	後	○		○				
フィールドワークを重視した研究活動。指導教員を中心とし，大学院生，学部生をまじえた研究活動や学会参加。OG・OBや他大学の大学教員の方々との関係構築。以上の点が，現在の大学教員としての教育・研究活動に役立っています。	後	○		○				
国際学会発表，他大学との合同ゼミ，スポーツイベントでの調査など。実践で学ぶことができ，かつ，ヒューマンネットワークが広がったため。	後	○		○				
指導教員を中心としたゼミ単位での研究活動や学会参加，現場レベルでのフィールドワークの経験，指導教員を通じたOB・OGや他大学の先生方との関係構築。以上の点が、現在の大学教員としての教育活動、研究活動に大いに役立っています。	後	○		○				

項目	修了課程	分類別該当項目						
		実践	総合	交流	能力	専門	教育	指導
大学院GPによる国外視察の際，訪問先との調整等を自身で行ったこと。職を得てから国際的仕事を行う際にその経験が非常に役立った。	後	○		○				○
主に総合的な視点からの学問的知見の獲得について								
少人数で先生方には丁寧に指導して頂いた。院生室があり，他の学生との交流・指導教官以外の先生方ともコミュニケーションがとりやすくなった。（自分は他大学から大学院に入学したので非常に助かった。）そのため，自分の専門分野以外の知識などに触れる機会が多く得られた。	前		○	○				
特定の授業というよりも，留学生と共に少人数のクラスで受講した事で新たな価値観，多様性を感じる事が出来た。	前		○	○	○			
ESD演習　国連・ユネスコ・文科省の進める重要な学びであり、関係性や課題も多岐に渡り、大学や大学院以上で学ぶものであると深く感じました。	前		○					
HC創成研究の授業。幅広い分野に興味を持ち，広い視野から人間個々の発達と環境について考えるようになった。	前		○					
学科を横断しての交流の機会が多く，ほかの大学とは異なると思う。それにより多様な見方を身につけることができた。いろいろな人と接する仕事において，固定観念にとらわれず，意見の交換をする時などに役立っていると思う。	前		○	○				
授業：人間環境学科では専攻の生物学以外に物理学，化学，地学の講義をうけることができ，自身の知識や視野を広げることができた。生物系の学生が物理の考え方を知ることができるのは素晴らしい。真の自然環境下の減少は多分野からの複合的な理解が求められると思う。また，自然環境学の演習？の授業では自分たちでテーマ設定して研究を行うという経験ができ，それを介して縦横のつながりができてよかった。異分野の友人をもてる。	前		○	○				
授業の類別或は形が多様であったことがとても印象的になった。社会科学と自然科学の接合に対する理解を深めた。これらのことにより，より多角的に自身を成長させました。	前		○					
生物学系の研究室に所属していても，授業やサイエンスカフェ等で物理学系や化学系等様々な分野に触れる機会があり，幅広い教養が身につき視野が広がることが研究科の特色だと思います。	前		○					
他大学の研究室の方や，他の職業の方との連携を通した研究がなされており，その中に入れていただいたことで，物事の見方や段取りについても学べました。研究職になっていませんが，現在につながっていると思います。	前		○		○			
毎回異なる教員が話すオムニバス形式の授業は印象に残るものだった。理由は，視野を広げる重要性を知ることができた点と，研究等における「人脈づくり」に役立てる可能性を感じた点にある。他分野が「何をやっているのか」ということのつかみだけでも知ると，自分自身の考えの見通しがつき，人からの相談（研究の方向性など）にも答えやすくなると感じている。	前		○					

項目	修了課程	分類別該当項目						
		実践	総合	交流	能力	専門	教育	指導
自分の専門分野以外の領域の話を聞く機会が多々あり，その領域でのアプローチの仕方や視点を得ることで様々な考え方を受容できるようになった。現在働いている中で，相手の立場を考えながら物事を進めようとできるようになった。	前		○					
将来の選択がとても幅があり，研究内容と無関係な授業も受けられるので，教養には役立っていると思われる。	前		○					
主に知見の交流について								
少人数での内容の濃い演習授業。→熱心な指導を緊張感を持って受けられ、研究活動を進めるうえで大変役に立った。	前			○				○
基本的には、からだ系講座の先生方の授業はどれも有意義でした。学部と違って、より少人数で受けるため、対話や演習、論文のピアレビューを交えながら先生からより多くの知識を得ることができた。論文のピアレビューを通してより多くのことを学ぶことができました。また、授業は自由度が高く、また、様々なことにチャレンジすることを後押ししてもらうことができました。先生だけでなく、博士課程の院生とも一緒に授業を受けました。院生のレベルも高く、とても勉強になりました。	前			○		○		
専門書の読書会。自分たちで学ぶのはたのしかった。	前			○				
中間発表やポスター発表を通じて研究の進め方とまとめ方を学んだ。考えていることを形にする力が身についた。	前			○	○			
本を読んで，一人がまとめたものを授業でディスカッションしていく，よくある学習形式ながら，ちゃんと先生のまとめが最後にある所。	前			○				
様々な学部生や院生との対話で、自身の知識以外の獲得や、意見の相違などを体験でき、知識が深まりました。	前			○		○		
学部より専門的に深く学べた。・発表スキルがついて。・留学生との交流（国際性が身に付く機会が多い）	前			○		○		
ゼミで異学年交流があり，先輩，後輩からも多くのことを学ぶことができた。その結果，納得のいく修論を書くことができた。修論を書く際に得た視点は，その後，教員生活で子どもと関わるときに役立っている。	前			○				
各種専門学会への参加と発表の機会を与えられた事。又，その時に各分野で著名な先生等と懇親を深める事が出来，修了後もつながりをもてたこと。又，授業においては，多くの留学生と接する事が出来，彼らの学びへの意欲や考え方を，授業やプライベート，議論の場で広く感じることができ，学べた事。	前			○				
研究室でのゼミ。交換留学。	前			○				
表現学科の学生たちとの公演活動　関先生の下で様々なアーティストの方々とお話ししたり，芸術性溢れる表現にふれたことで，自身にとっても勉強となり，また修練の場となったため。	前			○				
ゼミ。修了生も参加しいろいろ助言してもらえた。	後			○				

項目	修了課程	分類別該当項目						
		実践	総合	交流	能力	専門	教育	指導
指導教員との研究ミーティング。少人数だからこその，濃いやりとりができたし，自分という人間を形作ってくれた。	後			○				
学術ウィークが印象に残っております．神戸に居ながらにして海外の研究者と交流でき，学術的に国際的な視野を持つきっかけになりました．研究を国際的に行うきっかけの一つだったと思います。	後			○				
指導教員とのやり取りと海外学会発表が印象に残っている。その理由は，新しい価値観への転換の機会を与えられたことで視野が広がったこと。世界へ発信し，海外の研究者と知り合え，世界の動向を知ることができるようになったこと。英語力の改善につながった。大学教員としてこれらのすべてが役に立っている。	後			○	○			
様々な専攻の学生が集う６階院生室で過ごす時間はほかの専門的知見との交流というかけがえのない財産を与えてくれた。また，私の所属した学び系の先生方は風通しの良い研究環境を作ってくださり，ほかのゼミとの交流も活発で，そのような場で学際的にものを考える事，様々な角度から同一の問題を考察しうることを学んだ。	後			○				
主に課題解決能力、思考力、分析力等の能力の向上について								
印象に残っている優れた授業に共通しているのは，教員自身が柔軟な発想と自由さをもって」研究に取り組んでいることだと思います。そういう先生方の思考法や態度に触れることができたことが，今でも研究を行っていくうえで大きな財産になっています。	前				○			○
授業や研究活動を通じて「考える力」が身につきました。授業や活動については，すべてにおいて無駄なものはなく，私にとってかけがえのない経験だったと思います。学力のみならず，人間力，すなわち”生きる力”は人生において誰しも求められると思いますが，大学院(研究生含む)の期間に相当やしなわれたと自負しています。今後も，ますます磨きをかけて，人間的に大きく成長していけるよう努めます。	前				○			
現在の私のモノの見方を形成していると思っています。様々な人とのかかわりや，話の聞き方，出会いのきっかけを与えてくださったり，研究者としての学び方を知れた気もします。	前				○			
修士論文の執筆（教授や先輩からの指導含）→研究自体やテーマは現在の仕事につながるわけではなかったが，問題の提起，仮説，事例調査，考慮など物事を深く考える上で大変勉強になった。	前				○			
大学院での研究でいろいろ失敗しながら試行錯誤をくり返したことが印象に残っている。このときの実験スキルや知識は直接今に役立っていはいないが，課題解決の方法やものごとのとらえ方が今の仕事に役立っていると思う。	前				○			

項目	修了課程	分類別該当項目						
		実践	総合	交流	能力	専門	教育	指導
公務員試験のさなか，試験勉強や就職活動などで，研究に取り組む時間が減少したものの，2年間の間に４つの実験を行うことができたことが印象に残っている。また，指導教員の厳しい指導により，文章の構成能力や試行錯誤する能力，最後まで諦めず考え抜く能力などが身に付いた。現在の仕事に取り組む中で，物事を正確かつ迅速に遂行できる点や，課題について同僚が思い浮かばないようなアイデアを生み出すことができる点などに活かされている。	前				○			
個々の活動よりは全体的な修士での研究において，目標とすることに対し，一人では出来ないことをどうやって解決していくのか。このことを学ばせてもらって，今も仕事においても役立っています。又，様々な分野での授業を受けることが出来たため，視野を広げることをが出来，通常ならば関係ないと思われる事柄をいろいろと関連付けて考えることが出来ていると思います。	後				○			
全体を通して，社会生活に必要な，柔軟性が身についたと感じます。	後				○			
主に深い専門性・研究力の獲得について								
国語の文法について深める授業。「は」と「が」の違いなど今までに勉強しなかったことを教えていただけたから。	前					○		
所属研究室のゼミ活動です。研究内容もそうですが，ものの考え方や価値観においても沢山の気づきのあった時間でした。障がい者の教育について研究をしていたので，様々な事例を見て，どのようにすれば本人が幸せなのか，自分におきかえて考えることが多かったように思います。	前				○	○		
幅広い教育分野。１つ１つの専門性も高いため●ある研究に出会てよかった。科学（エナンチオ選拓的化学分域）だけでなく，幅広い知識を得たことが実社会で役立っている。フィールドワークで「体感」できたことが活きている。	前		○			○		
また，専修免許の取得にあたり，大学数学を学び直せたこともよかったです。	前					○		
英語の論文を読む授業があり，寝る間もおしんで調べ，学んだ。よく勉強したので印象に残っている。それがどの程度今役立っているかは，概念的なところでは役に立っていると言えると思われる。	前					○		
「特別研究」という授業が優れていると思います。「学術力」と「研究力」を身につけることが出来るし，また修論を完成するためにいろいろな協力を受けて，自分の根気と協力性も鍛えました。	前					○		
ひたすら論文を読み，発表をするという授業があったが非常に厳しい状況だったと思うが，その分知識は身についたと感じる。	前					○		
マイコンのプログラミング→全色（SE)でのプログラミングの考え方が身についており仕事に活かせた。	前					○		
マルクス「資本論」をゼミで読んだこと。労働や教育における様々な「格差」の問題を捉える上で，理論的な根拠になった。	前					○		
化学熱力学に関する講義。分子論的なものの見方を習得することができたから。	前					○		

項目	修了課程	分類別該当項目						
		実践	総合	交流	能力	専門	教育	指導
学会，自分の能力を追いこみ，高めることができた。	前					○		
教育制度論演習　多面的に教育制度，行政を捉え，深く洞察することができた。	前					○		
解析の授業は印象に残っています。マクローリン展開という，大学教養，数学の公式（定理）の導出は，高校数学の発展内容であり，現在の仕事に活かされている。	前					○		
仕事では製造工程より排出される廃液の処理技術を構築する。そういった水処理では，ろ過等の物理的除去，化学反応，生物による分解と多くの知識を必要とする。研究が合致しなければ，深い専門性はないが，すべてを広く考えれるところは強みだと思う。	前					○		
大学病院の先生の集中講義（児童青年精神医学というタイトルだったと思う）　自分の興味のある分野で，精神医学のことがよく知れた。M2の相談室実習も興味深かった。	前					○		
プレゼン能力。「10」おもしろい研究を行ったとしても「3」しか伝えられなければ，その研究の評価は「3」である。	前					○		
修士課程においては，しっかりと文献を読み，自分の研究テーマにおける課題と新規性を探求する力をつけることができたと思います。その過程において，授業では課題をいかに学際的に体系的に捉えていくのかを教示していただきました。	後		○		○	○		
ゼミ　研究力量	後					○		
主任指導教員による研究および論文作成についての指導が充実していたので，研究者を目指すにあたって必要となる考え方や研究の進め方についてをしっかりと学ぶことができた。その結果として，日本学術振興会特別研究員（DC)に採択されたり，修士や博士で行った研究がインパクトファクター付きの海外誌に掲載されたりし，研究者としてのキャリアを積むことができた。	後					○		
主に修了者の教育力の向上について								
論理学→教師として，数学を教える上での基礎を学んだ。	前						○	
修論の実験と修論の作成　高校生相手の授業（課題研究）で見るべきポイントが明確にわかる。	前						○	
生物環境学実験等のTAによって，学生指導について学ぶことができた。所属の変わった今，指導方法等は大きく役に立っている。	後						○	
統計解析の方法。自治体，事業体とのていねいな関係調整のあり方など。論文の組み立て，表現方法への細やかな指導は，現在の教育のあり方に反映することができています。	後						○	
研究室での研究活動→自ら主体的に実験を実行して収集したデータを分析する力→仕事現場で生徒の成績を分析するときに活用している	前						○	

項目	修了課程	分類別該当項目						
		実践	総合	交流	能力	専門	教育	指導
修士課程，社会人１年コースで学べたことは，私の誇りです。アカデミックなすべての授業が印象に残っています。１年で修士(教育学）の学位をいただき，それ以降の私の教育，研究の自信につながったのはもちろん，大学での非常勤面接においても役立ったと感じております。	前						○	
博士前期課程において，社会人対象の１年履修コースだったので，2年履修よりも時間的に短いという理由もあったとは思いますが，ご指導いただいた先生は毎週1時間研究指導をして下さいました。学部卒業後約30年を経ての入学でしたが，先生のご指導により，余裕をもって修論を完成させることができました。研究手法の基本から心理学まで，丁寧に教えていただきました。教育現場に戻った今，指導教授から学ばせていただいた「丁寧かつ適正な指導」を生徒に対して行っているつもりです。修論を完成させていく過程で発見した真理を解き明かしていく楽しさも生徒に伝えたいと思っています。アクションリサーチをしながら，時に心理学の知識も駆使して，子どもの教育にあたる日々ですが，こういったことができるのも博士課程前期にて学ばせていただいたおかげです。	前						○	
主に教員の優れた指導について								
夜間，休日を問わず対応して頂き（在職中であったので）非常に助かりました。何とか修論を完成させることができました。	前							○
シャンタルムフ「政治的なるものの再興」を読んだ。とても難しく，発表の準備は辛かったが，先生の解説はおもしろく，メモをとりたくなる言葉がたくさんあり，よい刺激となった。	前							○
学問の奥深さ，厳しさと寛容の精神。ほかの人間発達の先生方の研究に対する姿勢もすばらしいと思います。	前							○
体育・スポーツ分野において，各分野に精通した指導者に学べた点。自分の専門以外の知識が習得できた点。授業としては武井先生の情報処理，スポーツ史が印象にのこっています。	前							○
ゼミでていねいに指導をうけた。	前							○
論文や講義を受ける際，「この言葉はどのような状況を想定してどのような意味で使っているか」という，言葉の定義について必ず確認するよう指導されたことが印象的です。	前							○
教員の先生方が素晴らしく，熱心にご指導してくださったことがとても印象に残っており，現在の仕事に役立っています。また，事務職員の方も親身に対応してくださり，安心して研究をすすめることができました。	後							○

項目	修了課程	分類別該当項目						
		実践	総合	交流	能力	専門	教育	指導
私の場合は（珍しい方かと思いますが）、卒論・修論・博論と、全ての論文指導を同一の先生より指導していただきました。そのことにより、最終的に博士論文を書き上げたとき、博士号を取得して研究業績を整理したとき、神戸大学に在籍していた期間に自分が作った研究業績・テーマの全てに、一定の一貫性が見られたことです。また、博士論文の最終段階として、国際誌への投稿が課せられましたが、その時の経験と結果としての業績が、自分自身の教育活動と研究活動に役立っていることと、共同研究者となってくださった同業の先生方への諸活動に、わずかではあるものの貢献することが出来たことが分かったことです。	後						○	○
修士論文，博士論文の指導をいただいた授業	後							○
その他								
単位取得のために受講した心理学や教育学などの講義も印象に残っています。	前							
自由な学風	後							
合計		38	15	30	17	24	9	12

修了課程：前　前期課程修了，後　後期課程修了

実践：主に実践的な視点から学問的知見の獲得について記述されたもの

総合：主に総合的な視点から学問的知見の獲得について記述されたもの

交流：主に知見の交流について記述されたもの

専門：主に深い専門性や研究力の獲得について記述されたもの

能力：課題解決能力、思考力、分析力等の能力の向上について記述されたもの

教育：修了者の教育力の向上への寄与

指導：主に教員の優れた指導について記述されたもの

資料２　神戸大学大学院人間発達環境学研究科に期待されること

	修了課程	分類別該当項目A							分類該当項目B		
		実践	総合	交流	能力	専門	教育	指導	継続発展	課題	支援
今までと同様に、フィールドワークを大切にし、実社会で役立てる力をつける教育を続けてほしい。大学での専攻分野と就職先での仕事分野が異なっていても、ここで学んだ協調性や人間性、研究の基礎や考え方は非常に役立つ。今後は、人間性やコミュニケーション能力が特に重視されていく傾向になると思うので、従来のAO入試を続けてほしい。学力だけでなく、その辺りの能力の開発・育成に寄与してほしい。また、これまでのやり方を大切にする一方で、どんどん新しいことも取り入れて模索していってほしい。	前	○		○	○				○	○	
修了生に対して、（各人の同意が得られればだが）何か協力できることがあればいろいろな形でもっと利用してもらっても良いと思う。	前										○
ＯＢになってもかつて研究に多くの時間を費やした大学との接点は何らかの形で持っていたいという者は決して少なくないと思う。	前										○
優秀な人材の輩出。院生の研究内容・成果の定期的な発信。院生の研究活動に係る経済的支援制度の創設（支援側に税制メリットのある形で）	前					○				○	
国際文化学部と統合し，入ってくる学生が今までの学生と雰囲気が異なる国際系を重視していると聞き，少し不安。理系的思考や，研究に対する自主性，コミュニケーション能力など，多彩な能力を持ち合わせた学生をこれからも輩出して頂きたいと思っています。	前		○	○	○	○			○	○	
学部のときに比べると，院では他分野との交流が，ずいぶんと減っていたように思います。人間発達環境学研究科として，専攻をこえた学びの場があるとよりよいと感じます。発達科学への招待，発達科学演習など，ふだん講義を受けることのない教授から学ぶことも多かったと思います。現場にでると，多職種・他分野との共働の大切さを痛感します。	前			○					○		
卒業後も何らかの形で，学べる場があればうれしい。	前									○	
学部の方が再編され，研究科にも多少なりとも影響があるものと推察いたします。修了生として何かできることがございましたら，ご連絡ください。	前										○
現在，他大学院博士課程に通っていて，すべての面でその大学院に満足しています。神戸大学大学院にも是非，学生が満足感をもてるような大学院であってほしいです。	前									○	
表面的な「学際性」ではなく，共有しうるコンセプト，内実をもった領域横断的研究がさらに進められることを期待します。この研究科はそれが可能だと思います。	前		○						○		
学際的研究は，１つの分野でひいでたものを評価しやすい社会においては必ずしもすぐ成果のでるものではないかもしれませんが，実際の自然環境下での課題や，社会が抱える答えのない問題にアプローチ可能な重要なものだと感じます。卒業生として，発達で得た経験を生かして精進したいと思います。また発達科学部の自由で多様性の高い学風が好きでしたので，新しい学部にもそれがうけつがれるといいなと思います。末筆ですが，ますますのご発展をお祈りいたしております。	前	○	○						○		

	修了課程	分類別該当項目A							分類該当項目B		
		実践	総合	交流	能力	専門	教育	指導	継続発展	課題	支援
学内のみならず，学外(特に地域）と連携をとり神戸大学大学院だからこそできる学びを，学生に提供してください。応援しております。	前	○							○		
専門性をみがくこと，学際的に広く体感し学ぶこと，両方のバランスが実社会に出た時は重要になる。これから学ぶ学生達の可能性を最大限に引き出し，社会貢献に実績を残す人材育成，学問分野拡張で期待しています。	前	○	○		○	○			○		
分野を越えた交流をなくさないでほしい。	前			○					○		
発達科学部と人間発達環境学研究科のよい点は，先生方も学生も皆，”人間”に深い関心がある為か，授業にしても研究にしても何とも言えない優しさがあるところだと思います。良い意味でゆとりがありました。高度な研究にも期待しますが，今までの”人に対する優しいまなざし”は決して失ってほしくありません。	前							○	○		
修了してからも，院生時代にすごく貴重な体験をしていたんだ，と振り返ることが多いです。これからも院生時代に学んだことを活かせるように努力していきたいと思います。今後のさらなるご発展をお祈りしています。	前								○		
学生は，自身の取り組む研究と就職活動を結びつけたいと考える傾向が強いため，各分野での大学(研究所)と企業のコネクションを強くし，より明確にすることを期待する。	前								○		
頑張って下さい。	前										○
自分の専門分野を学ぶ機会のある研究科は，そうそうないため，これからもこの風土を大切にしていってほしい。学際的な姿勢で物事に取り組める人材を増やしていってほしい。	前		○						○		
学部から6年間，ここで学びましたが，どんな人でも受け入れてくれる自由な校風がとても好きでした。学部改組でこれからどんどん中身も変わっていくと思いますが，”発達らしさ”は変わらずありつづけてほしいです。	前								○		
学部や研究科の名称にとらわれず，分野横断的に幅広い教養が身につき，優秀な人材を輩出するような教育をされることを期待します。	前		○						○		
社会人コースの継続　社会人として３０年間、経験する中で、『もっと大学で学んでおけばよかった』という後悔を多くしました。様々な理由はありますが、大学生時代に、『大学で学ぶ授業の重要性や、必要性』に気付いていなかった。もしくは、『何が役立つか判らない』ことが課題だと感じています。社会人になって神戸大学大学院で学ぶ中、『学びへの執着』『学びの楽しさ』『学びなおし』を実感しました。日本の教育制度や社会制度の課題でもありますが、社会経験をした後に専門的な知識を大学や大学院で学ぶ事が、重要と感じています。このような貴重な制度を行っております神戸大学に心から感謝すると共に、この素晴らしい制度の継続を深く願っております。	前	○							○		

	修了課程	分類別該当項目A							分類該当項目B		
		実践	総合	交流	能力	専門	教育	指導	継続発展	課題	支援
大変優秀な学生が多いので，もっともっと課題を課して，鍛えてあげたらいいのではないかと思います。	前									○	
アクティブエイジング研究センターの活動，取り組みに大変期待しております。	前	○							○		
私が社会人になってから，自分の専門分野においても，知識の少なさに気づかされ，再度学問に学ぶ事に挑戦したいという気持ちで入学を希望しました。受け入れて下さった大学に感謝しております。一般学生と同様に学ぶことに懸命になれたのは，指導教員始め副査及び，研究科の先生の指導によるものでした。今後もレベルを落とさず，きびしく，愛情を持って学生に向きあって下さる事を期待します。	前								○		
優れた先生方の講義を受けることで，人間発達と環境に関する深い研究を推進できる土壌があります。ESDの西日本の本拠地になってほしいと願っています。応援しています。	前		○						○		
今後も，各分野で活躍する人材の輩出を期待しています。	前								○		
また神大に帰りたいと思える大学機関でしたので，今後も様々な先生方やフィールドワークを学生さんにふれさせてあげてほしいです。	前	○	○						○		
やはり，こころ系，からだ系，学び系，表現系の全ての授業が履修できたのは本当によかった。他領域を学ぶことで自分の専門性の知識が深まったことから，これは大切にしてほしい。このシステムは崩さないでほしい。欲を言えば，研究発表，中間報告など，今は各系ごとやっているのをほかの系の学生も参加聴講できる形式にできたら面白かったとおもう。教育系といえ，心理も必要になっている世の中なので，自由度を広げてほしい。	前		○						○		
学生の興味を研究として昇華させていく指導力に期待します。	前							○	○		
教員同士，横のつながりが希薄。他専攻とのつながりが強くなれば，より学際的な研究に結びつくと思われる。	前									○	
これからもますます他領域横断型の授業・研究プロジェクト，社会実装的取組を進め，発表されることを願っております。	前	○	○	○					○		
周りに切磋琢磨できる学友，信頼できる先生方がいらっしゃったおかげで，楽しい学びのある2年間を過ごすことができました。ありがとうございました。	前			○				○	○		
スポーツ，体育分野でのリベラルアーツ的（？）な学びがあったと思います。それが将来的にも継続されることを望みます。	前		○						○		
社会人入学で地域創成研究という目標にぴったりの広い視野と実践への創造的力を得，人生で大事な学習ができた。感謝している。（このような研究科は珍しかった時代の先見的試みの恩恵を受けた）今は自分が人財育成にたずさわる形で，お返しをできたらと思っている。オープンな研究環境が得難い。ちょうど国際交流研究の機会もあった。唯一の難点は図書館が整備不十分なところが残念だった。期待としては国際交流研究を活発化し，国際学会参加を積極的に支援して，国内だけでなく，国際的視野を広げられるとよいのではないか。(例)私の在籍時ではなかったが，バングラディシュから来られたとのこと伝達のみでも役立った。	前	○		○	○		○		○	○	

	修了課程	分類別該当項目A							分類該当項目B		
		実践	総合	交流	能力	専門	教育	指導	継続発展	課題	支援
これまで同様，社会にとって有益な人材を輩出していってください。私は，本学の卒業生であることを，誇りに思います。	前								○		
とても良い環境で学べたことに感謝しています。今も先生の研究室でお世話になっています。ありがとうございます。	前								○		
今後とも優秀な人材の輩出を期待しております。	前								○		
目先の利益や短期間の成果にとらわれるのではなく，比較的長いスパンで教育と研究をのびのびと行える研究科であっておしいです。またそのためには，それぞれの学問領域が既存の価値観や専門性に閉じこもるのではなく，自ら新陳代謝を起こしていけるかにかかっていると思います。そのような柔軟な志と能力，視野をもった教員が指導されることを望みます。	前		○	○					○		
国際性というのは，英語成績，留学生の人数などで現れることじゃなくて，体制や教員の意識もそれなりに変化を求めるべきではないかと。	前									○	
学際的な研究者の育成	前			○						○	
公認心理士が国家資格になったら，神大でも受験できるようにサポートがあるとよい。又，こども発達（当時）も心理学のコースに属し，心理の研究に触れられる機会が増えるとよいと思う。	前					○				○	
社会人で入学したため夜間の授業を中心に履修しました。夜間の授業や社会人の受け入れ(現職教員）を容易にしてもらえると有難いです。	前									○	
人間発達環境学研究科であるので人間のみならず，地球規模で課題解決できる学問を研究の主としてやっていってほしい。専門を研鑽することも大切ではあるが，領域をこえて，あらゆる学問が融合していってほしい。人間の生命，あらゆる生命を大切にできる教育，研究をしていってほしい。	前		○			○				○	
博士はもちろん，修士課程の大学院生でもより国際的に活躍できる土壌を作ってほし。学術ウィークなどのイベントを充実させて海外の研究者と交流することはもちろん，それをきっかけに研究成果を海外の雑誌に投稿すること等が当たり前のようになれば，他大学とは違った大学院になるかもしれません。また，すでに行われているように，学際的に人間に着目している点を大切にしてもらいたいと思います。博士号取得者とその後活躍できる人材をもう少し輩出できたらうれしく思います．大学で教育・研究に従事している身としては，アカデミアで活躍しているOB・OGの少なさが少し寂しかったりします。	後									○	

	修了課程	分類別該当項目A							分類該当項目B		
		実践	総合	交流	能力	専門	教育	指導	継続発展	課題	支援
私は、長く在籍したからということもあるかと思いますが、様々な先生方に顔を知っていただき、声をかけていただき、見守っていただきました。ちょうど改組もまたがり、元々所属していた成人学習・生涯学習の視点、そしてその後の行動発達の視点の双方からの指導を受けることができ、また、そこにも共通点と一貫性を感じることができ、その時の先生方とのご縁も含め、今の職場での活動にとても役立っています。研究指導的にコミュニケーションをとることと、それとは別次元でコミュニケーションをとる機会と、その両方が、かなり活発に、激しく実践されていたと確信しています（今振り返れば、皆さん「若かった」ということは否めませんが･･･）。今後の学生たちにも、そのような体験を獲得することができればと願っています。	後			○				○	○		
引き続き、学際的な視野を持ち、実社会における課題解決に貢献できるような教育、人材育成に取り組んでいかれることを期待しています。	後	○	○						○		
のんびりと研究できる雰囲気を期待します。	後									○	
私自身は3年で学位を取得できたが，周りを見ると何年もオーバードクターしている人が多く，研究を計画的に進めているように思えない状況である。もちろん本人の問題もあるだろうが，指導教員側の指導力不足ではないかと思えるところもある。そもそも博士の学位を持っていない教員が博士の指導や審査をしているという現状に大いに疑問を感じるので，今後はこれらが改善され，学位の取得が修業年限内に終わることが当たり前になるを期待している。	後							○		○	
とても良い環境で研究させて頂きました。外部からの改革の圧力にほんろうされることなく，良さを維持して欲しいです。期待しています。	後								○		
身体行動に関する分野および領域の教員枠をあまり削減しないでほしい。これからも先人が作ってきた歴史をつないでいくために，細々とでもいいので，先生方につないでいってもらいたいので・・・	後								○	○	
いろんなしがらみや圧力等あると思いますが，おもしろくない研究科にはなってほしくないです。様々な研究してて何の役に立つのだろうというような純粋な学問やってる人から，最先端なこと研究している人まで，一堂に集まって学べるところって少ないと思います。（化学，生物，物理，地学すべてあって。	後		○						○		
卒業後，学術的な面において，大学院に戻るという機会があまりありませんので，研究会や，勉強会などOB・OGも参加させていただけると，大変ありがたいです。	後										○
修士，博士学生に対する経済的支援の充実	後									○	
設備および研究費の充実によるさらなる発展を期待いたします。	後									○	

	修了課程	分類別該当項目A							分類該当項目B		
		実践	総合	交流	能力	専門	教育	指導	継続発展	課題	支援
分野間の交流が少ないので，より様々な研究分野を横断的に交換し，俯瞰できると良くなると考える。	後			○						○	
研究，教育両面での国際的，国内的にリードしていく大学になることをさらに期待しています。又，学生が主体的に学び，自由なアットホームな雰囲気で今後も継続してあると，学生がのびのびとまなぶことができ，いいと感じています。	後								○	○	
研究をすすめるために必要な環境（ハード面，研究費含める）と先生方の研究，教育における時間確保が大切だと感じます。先生方が最前線で研究されることは，学生，院生の学習意欲を高めるために極めて重要と考えています。	後									○	
リカレント教育	後		○						○		
マンツーマンによる対話型の指導をいただけたのは非常にありがたかったです。国の大学院・研究科の充実策は，ていねいな論文・研究の指導体制を揺るがしかねないと危惧しています。是非とも充実した指導体制を堅持していただきたいと願っています。	後			○				○	○		
独自の歴史に裏打ちされた”神大教育学”と呼べるものがすでに確立されていると思います。その灯を消さないでください。	後					○			○		
他分野が共存していることが発達の最もすぐれた特徴だと思いますが，無理な統合，合併をくり返すのではなく，●●な分野が自由に共存できる空気を維持して下さい。	後		○						○		
ひとえに指導教員の質だと考えます。	後							○		○	
		10	17	12	4	6	1	7	40	23	5

修了課程：前　前期課程修了，後　後期課程修了

分類別該当項目A

実践：主に実践的な視点から学問的知見の獲得について記述されたもの

総合：主に総合的な視点から学問的知見の獲得について記述されたもの

交流：主に知見の交流について記述されたもの

専門：主に深い専門性や研究力の獲得について記述されたもの

能力：課題解決能力、思考力、分析力等の能力の向上について記述されたもの

教育：修了者の教育力の向上への寄与

指導：主に教員の優れた指導について記述されたもの

分類該当項目B

継続発展：これまでの教育、研究を引き続き継続してほしい、さらに発展してほしい

課題：課題として解決してほしい

支援：修了生として支援がしたい

資料３　就職先一覧　（順不同）

特定非営利活動法人関西芸術振興会・関西歌劇団
新潟大学
佐賀大学
和歌山大学教育学部
神戸大学
株式会社テイエルブイ
美作大学
神戸大学付属中等教育学校
学校法人天理大学
兵庫県庁
株式会社アシックス
奈良県立大和中央高等学校
中学校教諭
大阪市子ども青少年局
トヨタ自動車株式会社
株式会社浜学園
株式会社イスペット
東広運輸株式会社
学校法人天理大学
高田こども家庭相談センター
大阪桐蔭
大阪行岡医療大学
金襴千里学園
大分大学
大阪府警察
根来接骨院
姫路市役所
社会福祉法人六甲鶴寿園
兵庫県中央こども家庭センター
神戸市教育委員会（SC）
株式会社ロマンライフ
県立姫路東高校
社会福祉法人北摂杉の子会
あいの病院
大阪府立高津高等学校
池坊短期大学
神戸大学／立命館大学／京都府立看護学校
兵庫県職員
旭硝子
大阪府立池田北高校
理研
三井倉庫HD株式会社
神戸市教育委員会事務局
大阪府立箕面支援学校
自宅教室にてピアノ講師
奈良県北葛城郡王寺町立王寺中学校
株式会社村田瀬錯書
四葉幼稚園
姫路市立飾磨西中学校
ジョブジョイントおおさか
兵庫県立伊丹高等学校
伊丹市立笹原小学校
同志社女子大学
兵庫県西宮こども家庭センター
兵庫県立リハビリテーション中央病院
滋賀県立高等学校
高知大学
NTTコミュニケーションズ
龍谷大学・京都大学
関西女子短期大学
西宮市立西宮高等学校
三田松聖高等学校
国立病院機構南和歌山医療センター
岡山県庁
大村病院
東久留米市役所
社会福祉法人平安徳議会乳児院
JR西日本
大阪市立明治小学校
武蔵野市役所子ども家庭支援センター
神戸市役所
読売テレビ
済生会兵庫病院
武庫川女子大学
京都教育大学
株式会社インボディージャパン
京都府
九州大学
姫路獨協大学
大手前大学
村田製作所
明石市立発達支援センター
神戸市立葺合高校
兵庫大学短期大学部
粟津神経サナトリウム
城南衛生管理組合
桃山学院大学
筑波大学
我孫子市こども発達センター
住友ゴム工業株式会社
くらしき作陽大学
大阪大学
NEC
株式会社富士通総研
新温泉町照来小学校
ニプロ株式会社
兵庫医科大学
情報技術開発株式会社
ダイキン工業
株式会社クラレ
大阪市南部こども相談センター
株式会社マイファーム
こども家庭センター
株式会社農研機構
大阪府立狭山高校
大阪産業大学
日本学術振興会
産経新聞
近畿大学付属小学校
兵庫県精神保健福祉センター
岡山建部医療福祉専門学校
アステラス製薬株式会社
こども園
岡山県精神科医療センター
大阪府立大学
sep.inc
株式会社ナカオカ
立命館大学
宝酒造株式会社
イビデン株式会社
川崎医療福祉大学
台湾桃園市立中興中学校
農林水産省
大阪市教育委員会
東海大学
株式会社アーサ，国立明石工業専門学校，関西リハビリテーション専門学校
武庫川女子大学，神戸松陰女子学院大学，大阪青山大学
東洋紡株式会社
積水化学工業株式会社

資料 4　質問票

神戸大学大学院人間発達環境学研究科
修了生アンケートのお願い

平成 29 年 7 月 18 日

神戸大学大学院人間発達環境学研究科修了生各位

神戸大学大学院人間発達環境学研究科
研究科長　岡田　修一

平成 19 年度に総合人間科学研究科を改組し人間発達環境学研究科が設置され，昨年は創立 10 周年を迎えました。今後も，ますますの発展をめざして研究と教育を行い，学術ならびに社会への貢献を目ざす所存です。

さて，これまでの研究と教育の成果や課題について真摯に振り返り，今後の研究と教育のあり方を考えていくために，修了生（博士認定退学者含む）の皆様を対象に，5 月末よりメールによるアンケート調査を実施させていただきましたが，修了時にご報告いただいたメールアドレス宛に送付させていただいたこともあり，多くの方からまだ回答いただけておりません。

つきましては，本研究科を修了された際にご報告頂いた住所もしくは帰省先住所宛に，改めて文書にて郵送させていただくことに致しました。誠に恐縮でございますが，同封のアンケート（両面５ページ）にご回答のうえ，返信用封筒にてご返送下さいますようお願い致します。

ご多忙中とは存じますが，人間発達環境学研究科の更なる発展のために，どうかご協力いただけますよう，重ねてお願い申し上げます。

なお，回答は 8 月末日までにご返送くださいますよう，よろしくお願い申し上げます。

留意事項

1. アンケートの結果は，神戸大学人間発達環境学研究科が受ける外部評価に向けた資料作成に使用します。得られた回答はすべて統計的に処理しますので，個人が特定されることはありません。
2. 回答していただいた結果について，集計後，神戸大学のホームページや各学部・研究科のホームページ，各種冊子体で公表することはありますが，統計処理をしますので，個人が特定できるような形で公表されることは絶対ありません。
3. 自由記述については，記入者が特定されることはありませんので，率直な意見を記入してください。ただし，教員，学生の名誉・プライバシーに関わることは記入しないでください。

1. あなたの性別の番号を記入してください。

[　　]

① 男性　　②女性

2. あなたの年齢を教えてください。

[　　] 歳

3. 現在の仕事について，教えてください。

（1） あなたの雇用形態等について，下記の中から番号を選んで記入してください。

[　　]

①正規雇用

②非正規雇用　（②を選ばれた方は，a から e の該当するものもご記入ください）

a 非常勤　b 短期雇用　c 派遣　d パートタイム　e アルバイト

③自営　④フリーランス　⑤主婦　⑥学生　⑦無職

⑧その他 [　　]

（2） （1）で，①から④に回答した人は，以下の A 群（キーワード），B 群（業種），C 群（職種）それぞれについて，選択肢から該当するものすべての番号を記入してください。また，勤務先の名称を教えてください。

A 群（キーワード） [　　]

1.教育　2.研究　3.技術　4.芸術　5.スポーツ　6.健康　7.福祉

8.医療　9.環境　10.心理　11.自然　12.情報　13.電気

14.金融　15.ICT（ｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝ･ｱﾝﾄﾞ･ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ･ﾃｸﾉﾛｼﾞｰ）　16 国際

17.地域　18.行政　19.開発　20.調査　21.企画　22.政策

23.生活　24.子ども　25.高齢者　26.ジェンダー　27.コミュニティ

28.社会支援　29.社会教育　30.学校教育　31.その他[　　]

B 群（業種） [　　]

1. 農林・水産　2. 林業　3. 漁業　4. 鉱業　5. 建設業　6. 製造業

7. 電気・ガス　8. 運輸・通信業　9. 卸売・小売・飲食業　10. 金融・保険業

11. 不動産業　12. サービス業　13. その他[　　]

C 群（職種） [　　]

1. 研究職（大学・短大・高専・研究所等）　2. 研究・技術職（企業等）

3. 専門職（医師，弁護士，会計士，税理士，コンサルタント等）

4. 専門職（カウンセラー，家裁調査官等）　5. 教育職（教員）

6. 行政職（公務員）　7. 企業経営　8. NGO/NPO 運営　9.経理・財務

10. 生産管理　11. 営業・販売　12.人事　13. 広報・宣伝

14. その他 [　　]

勤務先の名称 [　　]

4. あなたが神戸大学人間発達環境学研究科で次の課程を修了したかを回答し，修了した課程の専攻の番号を下記より選んで[　]に記入し，その入学年度および修了年度を教えてください。

（1）修士（博士前期）課程

[　　]

①修了した　　②修了しなかった

（2）修士（博士前期）課程を修了した人は所属した専攻名の番号を記入してください。

■ 平成 19 年度（2007 年度）から平成 24 年度（2012 年度）入学の方

[　　]

①心身発達専攻　　②教育・学習専攻　　③人間行動専攻

④人間表現専攻　　⑤人間環境専攻

■ 平成 25 年度（2013 年度）以降入学の方

[　　]

①人間発達専攻　　②人間環境学専攻

（3）修士（博士前期）課程を修了した人は，その入学年度と修了年度を教えてください。

■ 入学年度：[平成　　] 年入学

■ 修了年度：[平成　　] 年　[　　] 月修了

（4）博士後期課程

[　　]

①修了した　②修了しなかった　③単位取得退学した

（5）博士後期課程を修了した人は所属した専攻名の番号を記入してください。

■ 平成平成 19 年度から平成 24 年度入学の方

[　　]

①心身発達専攻　　②教育・学習専攻　　③人間行動専攻

④人間表現専攻　　⑤人間環境専攻

■平成 25 年度以降入学の方

[　　]

①人間発達専攻　　②人間環境学専攻

（6）博士後期課程を修了した人は，その入学年度と修了年度を教えてください。

■ 入学年度：[平成　　] 年入学

■ 修了年度：[平成　　] 年　[　　] 月修了

■ 単位取得退学の場合：[平成　　] 年　[　　] 月単位取得退学

5. 神戸大学発達科学部を卒業した場合は，①に所属した学科の番号を記入してください。神戸大学発達科学部以外を卒業した人は，具体的に大学，学部，学科名を教えてください。

①神戸大学発達科学部の卒業

■ 平成 4 年度（1992 年度）から平成 16 年度（2004 年度）入学の方

[　　]

a 人間発達科学科　　b 人間環境科学科　　c 人間行動・表現学科

■ 平成 17 年度 2005 年度以降入学の方

[　　]

a 人間形成学科　　b 人間行動学科　　c 人間表現学科　　d 人間環境学科

②神戸大学発達科学部以外の卒業

国名 [　　]

大学 [　　] 学部 [　　] 学科 [　　]

以下の設問にお答えください。回答は該当番号を記入してください。

問　本研究科での授業や研究，課外活動等で，知識，スキル，態度（価値観等）をどの程度身につけることができたと思いますか。最もあてはまるものを選んでください。

[　　]

（5）かなりできた
（4）どちらかといえばできた
（3）どちらともいえない
（2）どちらかというとできなかった
（1）全くできなかった

問　本研究科での授業や研究，課外活動等は満足のいくものでしたか。最もあてはまるものを選んでください。

[　　]

（5）かなり満足している
（4）どちらかといえば満足している
（3）どちらともいえない
（2）どちらかというと不満足である
（1）全く不満足である

問　研究科における活動を通じて得られた知識，スキル，態度（価値観等）は，現在（かつて）の仕事等に役立っていると思いますか。最もあてはまるものを選んでください。

[　　]

（5）かなり役立っている

（4）どちらかといえば役立っている
（3）どちらともいえない
（2）どちらかというと役立っていない
（1）全く役立っていない
（0）わからない

問　あなたが修士（博士前期）課程・博士後期課程で受けた授業や活動の中で，「印象にのこっている」，「優れている」と思うものがあれば教えてください。また，そう思う理由，それによりあなた自身がどのようなことを獲得できたかやどのようなことが役に立っているかなど，その効果について記載してください。

問　本研究科が優れている点は次のうちのどれですか。優れていると思われる項目すべての番号を記入してください。

[　　]

① 明確な使命・学風を持っている
② 人間の発達及び人間の発達を支える環境に関わる学識を身につけることができる
③ 人間の発達と環境を学際的・総合的に捉え，分析するための学識を身につけることができる
④ 次の領域における人間発達におけるに諸課題を捉え，実践的に解決できる専門的学識と実践的能力を育成している
「心身の発達や健康」，「感性の発現としての表現活動」，「行動や身体活動」，
「教育や学習」，「自然環境」，「数理情報環境」，「生活環境」，「社会環境」など
⑤ 主体的実践的な問題解決能力を身につける教育が充実している
⑥ フィールドワーク・実践・実験を重視している
⑦ 優れた教員が多い
⑧ 分野を超えた研究交流を行う機会があり，学際的に学ぶ機会がある
⑨ 学外からの専門家を招き，専門的知見を広げる機会が充実している
⑩ 社会との連携を重視している
⑪ 国際性を重視している
⑫ 少人数・対話型の教育が充実している
⑬ 高いレベルの研究を行っている
⑭ 教育や研究のための施設・設備が整っている
⑮ 社会の多方面で活躍する人材を輩出している

⑯ 人間の発達を中心にした多領域横断型の研究プロジェクトが充実している
⑰ サイエンスショップ，のびやかスペース『アーチ』,『アゴラ』，心理教育相談室，
アクティブエイジング連続講座など，研究や教育を基盤とした社会実装的取り組みが行われている

特に研究について

⑱ 人間の発達と環境に関する研究を自立して行う能力を身につけることができる。
⑲ 人間の発達と環境に関する共同研究や学際研究を企画・組織する能力を身につけることができる。
⑳ 人間の発達と環境に関する多様な研究分野を俯瞰し，新たな研究課題や領域の開拓へと活かす創造的能力を身につけることができる。
㉑ 人間の発達と環境に関する各研究分野に関連した高度な研究能力を身につけることができる。

神戸大学大学院人間発達環境学研究科に期待されることに関するご意見等がございましたら，ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

神戸大学大学院　人間発達環境学研究科
修了生アンケート結果報告書

編集・発行　神戸大学大学院人間発達環境学研究科自己評価委員会

神戸市灘区鶴甲 3 丁目 11
T E L　078-803-7905
F A X　078-803-7939
E-mail　hudev-soumu@office.kobe-u.ac.jp
印　刷　一（はじめ）印刷
発　行　平成 29 年 10 月